

令和7年(2025)

# JAてんどう病害虫防除暦

安全・安心な天童の農産物を消費者へ届けるために

- 農薬の使用基準を守り適正な防除に努めましょう。
- 農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。農薬の使用に際しては、ラベルをよく読んで確認してください。
- 生産工程管理表を正確に必ず記入しましょう。
- 農薬散布時の飛散には十分注意し、住民及び環境に対する安全に努めましょう。

## 水100ℓ当たり農薬希釈早見表

倍率	30倍	50	100	200	250	300	350	400	450	500	600	700	750
薬剂量 g・mℓ	3,333	2,000	1,000	500	400	333	285	250	222	200	166	142	133

倍率	800倍	1,000	1,200	1,500	2,000	2,500	3,000	4,000	5,000	6,000	7,000	8,000	10,000
薬剂量 g・mℓ	125	100	83	66	50	40	33	25	20	16	14	12	10

希釈農薬量算出式（水和剤・水溶液・フロアブル・乳剤・液剤）  
散布量（水：ℓ）÷ 希釈倍数 × 1,000 = 必要農薬量（g・ml）



J A て ん ど う

J A 全 農 山 形

天童市農協農畜産物安全安心推進本部

JAてんどう情報サービス

<https://www.jatendo.or.jp/>

# 令和7年 水稲病害虫防除基準

## 種子消毒 ※ 種子更新は毎年必ず行う。

対象病害虫	使用薬剤	使用方法	注意事項	月日	防除実績 (×モ)						
いもち病・ばか苗病 苗立枯細菌病 こま葉枯病・褐条病 もみ枯細菌病 苗立枯病(リゾーフス菌・トリコデルマ菌)	<b>テクリードCフロアブル</b> (浸種前：1回)	浸漬処理 塩水選を行ない、水洗いした種もみの水を切り、200倍液(水20%に対してテクリードCフロアブル現物100ml)に24時間浸漬する。	(1) 薬液の使用量 <table border="1"> <tr> <td>乾燥種もみ</td> <td>水</td> <td>テクリードCフロアブル</td> </tr> <tr> <td>10kg</td> <td>20%</td> <td>100ml</td> </tr> </table> (2) 使用後の薬剤は水路や池にすてない。 (3) 薬液の温度は極端な低水温を避けること。	乾燥種もみ	水	テクリードCフロアブル	10kg	20%	100ml	/	
乾燥種もみ	水	テクリードCフロアブル									
10kg	20%	100ml									

※ 生もみがら・わらなどは、ばか苗病・いもち病の伝染源になるので育苗資材には使用しない。  
 ※ 育苗箱施用剤を使用した場合は、同一場所の後作で野菜等を栽培しない。

## 育苗期

時期	対象病害虫	使用薬剤		使用方法	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
		省力体系	一般体系				
は種前 (土壌混和)	苗立枯病 (ピシウム菌) (フザリウム菌) ムレ苗防止	—	タチガレエースM粉剤 (は種前：1回)	粉剤は1箱当り8g使用し、育苗箱土壌に均一に混和する。	(1) 適正酸度 (PH4.5~5.5) の土壌を使用する。 (2) 人工培土を使用する場合でも混和する。	/	
は種時	苗立枯病 (ピシウム菌) (フザリウム菌) (リゾーフス菌) ムレ苗防止	<b>ナエファインフロアブル</b> (は種時：2回以内)	—	は種時に、灌水をかかて、1箱当たり1,000倍の場合は500ml、2,000倍の場合は1%を灌注する。	(1) リゾーフス菌・細菌性病害の発生を防ぐため、出芽の土温は30℃以上にしない。 (2) 液温を20℃前後で使用(白化現象を防ぐため)。 (3) ムレ苗防止に使用する場合、ピシウム菌に有効。	/	
は種時~緑化期	苗立枯病 (リゾーフス菌)	—	ダコニール1000 (は種時~は種14日後：2回以内)	500倍(20ml/10%)液を1箱当り500ml灌注する。		/	
育苗期	苗立枯病 (フザリウム菌) (ピシウム菌) ムレ苗防止	—	タチガレン液剤 (は種時又は発芽後：2回以内)	は種7~10日後から平均気温が10℃以下の日が2~3日続いた時はタチガレン液剤500倍(20ml/10%)液を1箱当り500ml灌注して予防する。	(1) は種時までにタチガレエースM粉剤を使用しない場合は、タチガレン液剤の代わりにタチガレエースM液剤500倍液を1箱当り500ml灌注しても良い。(使用回数1回)	/	

## 育苗箱施用剤

時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準 使用時期 使用回数	使用方法	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
は種前 ~ 移植当日	いもち病 イネミスゾウムシ イネドロオウムシ	<b>ブーンパディート箱粒剤</b>	は種前  は種時(覆土前) ~ 移植当日	育苗箱の床土又は覆土に1箱当たり50gを均一に混和する。  は種時(覆土前)~移植当日に1箱当たり50gを育苗箱の上から均一に散布する。	被害が出る恐れがあるので次の事項に注意する。 (1) 軟弱徒長苗には使用しない。 (2) 茎葉に付着した薬剤は払い落とし、軽く散水する。 (3) 移植後は、すみやかに湛水する。 ※育苗箱1箱当りに乾粉として200~300g程度を高密度に播種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50~100gまでの範囲で調整する。 ※箱処理剤を使用した場合は、同一場所の後作で野菜等を栽培しない。	/	

## カメムシ対策

耕種の防除	① カメムシの発生密度を下げるため、常日頃から畦畔・農道などの草刈り及び水田内の除草を徹底する。 ② 出穂間近の草刈りはカメムシを水田に侵入させるので、草刈りは7月20日頃までに行ない、その後8月下旬(8月25日頃)まで草刈りは行わない。	/	
特別防除	カメムシの発生が多い圃場では、7月上中旬にトレボン乳剤2,000倍(収穫14日前まで3回以内)を畦畔を含む水田周辺部に90%/10a額縁散布する。	/	

## 無人航空機による防除体系

時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準 使用時期 使用回数	使用方法	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
穂揃期 (8/7~8/12頃)	いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	トップジンスタークルフロアブル	収穫 14日前まで 3回以内	4倍液を10a当たり800ml 無人航空機で散布する。	(1) 穂いもち病防除の重要な時期なので、防除を徹底する。 (2) カメムシ類の重要な防除時期なので、畦畔を含めて防除する。	/	
穂揃期 7~10日後 (8/15~8/20頃)	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	エクシードフロアブル	収穫 7日前まで 3回以内	16倍液を10a当たり800ml 無人航空機で散布する。	(1) カメムシ類の重要な防除時期なので、畦畔を含めて防除する。	/	

## 個人防除体系

時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準 使用時期 使用回数	使用方法	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
7月下旬 (7月25日頃)	いもち病	コラトップ粒剤5	出穂30日前~ 5日前まで 2回以内	湛水して10a当たり3kgそれぞれ散布する。	(1) 散布時は湛水(水深3cm以上)にし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 (2) 紋枯病が心配される所では、モンガリット粒剤4kg/10aを使用する。(収穫30日前まで2回以内)	/	
	カメムシ類	キラップ粒剤	収穫14日前 まで 2回以内				
穂揃期	ウンカ類 カメムシ類 ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ イネドロオウムシ	スタークル粒剤	収穫 7日前まで 3回以内	湛水して10a当たり3kg散布する。	(1) 散布時は湛水(水深3cm以上)にし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。	/	

## 水稲倒伏軽減剤

薬剤名	使用時期	使用量(10a当たり)	使用回数	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
スマレクト粒剤	出穂7~20日前	2kg	1回	(1) 散布時は湛水状態で使用する。 (2) 重複散布や多量散布にならないようにする。 (3) 散布後7日間は落水、かけ流しはしない。	/	

## 除草剤の使用基準

- ※ 除草剤散布後7日間は落水しない。
- ※ 除草剤の散布にあたっては、畦畔等からの漏水を防止することにより、効果のアップを図る。
- ※ 移植後好天が続くと、藻類・浮草・表層はく離が多発するので、除草剤は使用適期内の早い時期に散布する。
- ※ 藻類・浮草・表層はく離が多発している水田では、拡散が不十分となり効果が劣ることがあるので注意する。

◎効果高い ○効果ある △やや劣る

※ いずれか一剤使用する。

※ いずれか一剤使用する。

### 体系処理 (初期+中期)

藻類対策

藻類対策

初期薬剤名	抵抗性ホタルイ	抵抗性アゼナ	使用時期	使用量 (10a当たり)	月日
クラール1キロ粒剤	○	◎	移植時又は 移植直後～ ノビエ 1.5葉期 まで	1kg	/
クラールEW	○	◎	移植直後～ ノビエ 1.5葉期 まで	500ml	
エリジャンジャンボ	○	◎	移植直後～ ノビエ 1葉期 まで	10個 (300g)	

体系処理

中期薬剤名・使用時期・使用量(10a当たり)	抵抗性ホタルイ	抵抗性アゼナ	月日
レプラス1キロ粒剤 移植後14日～ノビエ4葉期 使用量 1kg	◎	◎	/
テッケンジャンボ 移植後15日～ノビエ4葉期 使用量 10個(500g)	◎	◎	
ワイドショット1キロ粒剤 移植後15日～ノビエ4葉期 使用量 1kg	◎	◎	
パイゴールSM1キロ粒剤 移植後15日～ノビエ3、5葉期 使用量 1kg	◎	◎	

### 一発処理剤

(1) 粒剤

(2) フロアブル剤

(3) 省力散布剤

薬剤名	抵抗性ホタルイ	抵抗性アゼナ	ノビエへの 使用時期	使用量 (10a当たり)	使用時期	注意事項	月日
アットウZ1キロ粒剤	◎	◎	4葉期まで	1kg	移植時または 移植直後～ 収穫60日前まで	(1) 過剰散布にならないよう事前に散布機の吐出量を確認する。 (2) 散布時期が遅れると効果が劣る恐れがあるので、適期内に散布する。 (3) 散布後7日間は止水とし、田面を露出させない。 (4) 移植時に使用する場合は、田植同時散布機で施用する。	/
デオレ1キロ粒剤	◎	◎	3葉期まで		移植時または 移植直後～ 移植後30日まで		
シンズイズ1キロ粒剤	◎	◎	4葉期まで		移植時または 移植直後～ 移植後30日まで		
アットウZフロアブル	◎	◎	4葉期まで	500ml	移植後3日～ 移植後30日まで	(1) 散布前にボトルを軽く振って攪拌する。 (2) 散布は、水の出入りを止め湛水状態で原液のまま田面に散布する。 (3) 散布後7日間は止水とし、田面を露出させない。 (4) 砂質土壌・漏水の大きな水田では使用しない。 (5) 藻類や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり効果が劣ることがあるので使用しない。	/
デオレフロアブル	◎	◎	3葉期まで		移植後1日～ 移植後30日まで		
シンズイズフロアブル	◎	◎	4葉期まで		移植後3日～ 移植後30日まで		
アットウZジャンボ	◎	◎	4葉期まで	10個 (400g)	移植後3日～ 収穫60日前まで	(1) 散布は、水の出入りを止め、水深5～6cmに湛水して投げ込む。 (2) 散布後7日間は止水とし、田面を露出させない。 (3) 藻類や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり効果が劣ることがあるので使用しない。	/
デオレジャンボ	◎	◎	3葉期まで	10個 (400g)	移植後1日～ 移植後30日まで		
シンズイズジャンボ	◎	◎	4葉期まで	10個 (250g)	移植後3日～ 移植後30日まで		
アットウZ400FG	◎	◎	4葉期まで	400g	移植後3日～ 収穫60日前まで		
シンズイズ豆つぶ250	◎	◎	4葉期まで	250g	移植後3日～ 移植後30日まで		
デオレ顆粒	◎	◎	3葉期まで	80g	移植後3日～ 移植後30日まで		

### 残草対策

オモダカ対策

薬剤名	対象雑草	ノビエへの 使用時期	使用量 (10a当たり)	使用時期	注意事項	月日
ハサグラン粒剤 (ナトリウム塩)	広葉雑草のみ	-	3～4kg	移植後15日～ 収穫45日前まで	(1) 落水散布またはごく浅く湛水して散布する。 (2) 散布後3日間は入水しない。 (3) 雨天が予想される場合は散布しない。	/
ハイスコープ1キロ粒剤	広葉雑草のみ	-	1kg	移植後14～60日 収穫45日前まで	(1) 湛水状態(水深3～5cm)にし、水の出入りを止めてから散布する。 (2) 散布後7日間は落水、かけ流しはしない。	
トドメMF1キロ粒剤	ノビエ	5葉期まで	1kg	移植後14日～ 収穫50日前まで	(1) 湛水状態(水深3～5cm)にし、水の出入りを止めてから散布する。 (2) 散布後7日間は落水、かけ流しはしない。	
クリンチャーバスME液剤	ノビエ・広葉雑草	5葉期まで	1% (希釈水量70～100%)	移植後15日～ 収穫50日前まで	(1) 散布前に落水して使用する。散布後3日間は入水しない。 (2) 雨天が予想される場合は散布しない。	
ハサグラン液剤 (ナトリウム塩)	広葉雑草のみ	-	500～700ml (希釈水量70～100%)	移植後15日～ 収穫45日前まで	(1) 落水散布又はごく浅く湛水して散布。 (2) クサネムの草丈70cmまで、イボクサの茎長60cmまで。	
ロイヤント乳剤	ノビエ・広葉雑草	5葉期まで	200ml (希釈水量100%)	移植後20日～ 収穫45日前まで		

### 刈取後の 残草対策

薬剤名	対象雑草	使用量 (10a当たり)	使用時期	注意事項	月日
クロレートS	一年生雑草及び多年生イネ科雑草 オモダカ	20～25kg 30～40kg	水稲刈取後 (秋期雑草生育期)	(1) 雑草の発生が多かった圃場では、秋耕転せずに刈取後なるべく早く使用する。	/

## 大豆病虫害防除基準

		適正使用基準	月日
種子消毒(紫斑病・タネバエ)	ハト対策と合わせて、キヒゲンを乾燥種子重量の1%種子粉衣する。	は種前 1回	/
タネバエ	カルホス微粒剤Fを6kg/10a散布し、土とよく混和する。	は種時 2回以内	/
マメシクイガ及び紫斑病	マメシクイガはスミチオン乳剤1,000倍(収穫21日前まで4回以内) 紫斑病はトップジンM水和剤1,000倍(収穫14日前まで4回以内)を 混用し散布する。散布液量 100～300% / 10a	※スミチオン乳剤は、アブラナ科野菜(ハクサイ、青菜、 ダイコンなど)に被害があるので注意する。	/

## 大豆、飼料用とうもろこしの除草剤

作物	除草剤名	使用量(10a当たり)	散布時期および使用方法	注意事項	月日
大豆	エコトップP乳剤	500ml (希釈水量100%)	は種後出芽前 (雑草発生前) 1回 全面土壌散布	(1) 畑地1年生雑草に効果を示す。 (2) 生育期の作物に付着すると、葉先が黄化する。 (3) 砂土では使用しない。	/
飼料用 とうもろこし	エコトップP乳剤				
	ブルーシアフロアブル	50ml (希釈水量100%)	生育期(とうもろこし3～5葉期) 但し、収穫45日前まで1回 雑草茎葉散布又は全面散布	(1) 展着剤は加用しない。 (2) 葉害が生ずる恐れがあるので碎土、整地及び覆土は行わない。 (3) 極端な過湿土壌及び砂質土壌で使用する場合には、 生育を抑えることがあるので少なめに薬量を散布する。 (4) 砂土では使用しない。	/

# ねぎの防除薬剤

## 【害虫防除】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

作業	適用のある害虫							IRAC コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	アザミウマ類	シロイチモシヨトウ	ネギハモグリバエ	タマネギバエ	ネギコガ	ネキリムシ類	ネダニ類			アブラムシ類	倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数		使用回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
育苗期 後半～ 定植 当日	ネギ		○	○		○	○	28+4A	ジュリボフロアブル	200倍	育苗期後半 ～定植 当日	1回	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用 土壌約1.5～4%）当り500mlを灌注	/					
定植時						○	○	3A	フォース粒剤	9kg	定植時	1回	定植時までの処理は1回以内（作業土壌混和）、定植後の処理は1回以内 （株元散布）	/					
	ネギ		○					4A	バストガード粒剤	6kg	定植時	1回	植溝処理土壌混和	/					
生育期	○	※	○	○			○	3A	アグロスリン乳剤	2,000倍	7日前まで	5回以内	※1,000倍でシロイチモシヨトウの適用あり	/	/	/	/	/	
							○	16	アブロードフロアブル	1,000倍	14日前まで	1回	株元灌注	/					
						○		3A	ガードバイトA	3kg	生育初期	3回以内	株元散布	/	/	/			
	○	○	※		○			30	グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	※ハモグリバエ類	/	/				
		○	○		○			13	コテツフロアブル	2,000倍	7日前まで	2回以内		/	/				
	○		○	※	○		○	1B	ダイアジノン乳剤40	1,000倍	21日前まで	2回以内	※タマネギバエの場合は700倍で使用	/	/				
	ネギ	○	○				○	4A	ダントツ粒剤	6kg	3日前まで	4回以内	株元散布但し、定植時までの処理は1回以内	/	/	/	/		
	○	○	○		○			5	ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		/	/				
	○	○	○		○		○	21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	7日前まで	2回以内	さび病、べと病にも適用あり（FRACコード39）	/	/				
	○		○					34	ファインセーフフロアブル	2,000倍	3日前まで	2回以内		/	/				
ネギ	○						UN	プレオフロアブル	1,000倍	3日前まで	4回以内		/	/	/	/			
○							4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	7日前まで	3回以内		/	/	/	/			

●ネギはネギアザミウマ

## 【病害防除】

作業	適用のある病害								FRAC コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	軟腐病	葉枯病	べと病	さび病	黒斑病	小菌核 腐敗病	白絹病	黄斑病			倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
生育期		○	○	○	○			○	11	アミスター20フロアブル	2,000倍	3日前まで	4回以内	単剤使用 混用・展着剤不可	/	/	/	/	
		○	○	○	○	○	○		11	メジャーフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/	/	
	○								P2	オリゼート粒剤	6kg	土寄せ時、30日前まで	2回以内	土寄せ時に株元散布する	/	/			
				○	○				3	オンリーワンフロアブル	1,000倍	14日前まで	3回以内		/	/	/		
	○		○						M1	クプロシールド	1,000倍	—	—	高温時の散布は避ける。浸透性展着剤との混用不可。	/	/	/	/	/
	○								24+M1	カスミンボルドー	1,000倍	14日前まで	※2回以内	カスガマイシンを含む剤（※カスミンボルドー、カセット水和剤）の総使用 回数は2回以内。	/	/			
	○								31+24	カセット水和剤	1,000倍	14日前まで	※2回以内	オキシリニック酸を含む剤（※カセット水和剤、スターナ水和剤）の総使用 回数は3回以内。	/	/			
	○								31	スターナ水和剤	2,000倍	7日前まで	※3回以内		/	/	/		
			○	○	○				3	サブロー乳剤	1,000倍	前日まで	5回以内		/	/	/	/	/
		○	○	○	○				M3	ジマンダイセン水和剤	600倍	14日前まで	※3回以内		/	/	/		
		○	○	○	○				3+M3	テーク水和剤	600倍	14日前まで	※3回以内	マンゼブを含む剤（※ジマンダイセン水和剤、テーク水和剤、リドミル ゴールドM2）の総使用回数は3回以内。	/	/	/		
			○	○	○				4+M3	リドミルゴールドMZ	1,000倍	14日前まで	※3回以内		/	/	/		
			○	○	○		○		4+11	ユニフォーム粒剤	9kg	土寄せ時、45日前まで	1回	土寄せ時に株元土壌混和する	/				
			○	○	○			○	11	ストロビーフロアブル	2,000倍	7日前まで	3回以内		/	/	/		
		○	○	○	○	○			M5	ダコニール1000	1,000倍	14日前まで	3回以内		/	/	/		
			○	○	○	○	○		7	モンカット粒剤	4～6kg	土寄せ時、30日前まで	4回以内	土寄せ時に株元散布する	/	/	/	/	
			○	○	○	○	○		7	パレード20フロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
			○	○	○	○	○		7	カナメフロアブル	4,000倍	前日まで	4回以内		/	/	/		
			○					3	ラリー水和剤	2,000倍	7日前まで	3回以内		/	/	/			
			○					21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	4回以内		/	/	/	/		
			○					40	レーバフロアブル	2,000倍	7日前まで	2回以内		/	/				
				○	○	※		2	ロブラール水和剤	1,000倍	14日前まで	3回以内	※白絹病の場合は500～1,000倍、1㎡当り1%株元灌注	/	/	/			
○						※		U18	ハリダシン液剤5	500倍	前日まで	2回以内	※白絹病の場合は株元散布	/	/				

●展着剤は、水和剤、フロアブルに加用する。

# ほうれんそうの防除薬剤

## 【害虫防除】

作業	適用のある害虫					IRAC コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）						
	アブラムシ類	アサギハモグリバエ	ホウレンソウ アサギハモグリバエ	ヨトウムシ	ハスモン ヨトウ			ネキリムシ類	倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数		使用回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
は種前			○			○	3A	フォース粒剤	9kg	は種前	1回	全面土壌混和	/					
生育期	○			○			3A	アグロスリン乳剤	2,000倍	7日前まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける	/	/	/	/	/	
	○					○	4A	アドマイヤーフロアブル	4,000倍	前日まで	2回以内	アザミウマ類にも適用あり	/	/				
			○			○	6	アフーム乳剤	2,000倍	3日前まで	2回以内		/	/				
			○	○		○	15	カスケード乳剤	4,000倍	3日前まで	3回以内	脱皮阻害剤なので遅効性	/	/	/			
			○				10B	ネコナカットフロアブル	1,000倍	3日前まで	2回以内	葉の裏表に十分に散布する	/	/				

## 【病害防除】

作業	適用のある病害	FRAC コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
				倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
は種前	べと病・白斑病	4+11	ユニフォーム粒剤	9kg	は種前	1回	全面土壌混和	/					
生育期	べと病・白斑病	P7	アリエッティ水和剤	1,500倍	前日まで	2回以内		/	/				
	べと病・立枯病	U17	ピシロックフロアブル	1,000倍	前日まで	2回以内	耐雨性○ 予防的に散布する	/	/				
	べと病	21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	耐雨性○ 予防的に散布する	/	/	/			
	べと病	40	レーバフロアブル	2,000倍	3日前まで	2回以内	耐雨性○	/	/				

# こまつなの防除薬剤

## 【病害虫防除】

作業	適用のある病害虫	IRAC コード	FRAC コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）		
					倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目
は種前 又は 定植前	根こぶ病		36	ネビジン粉剤	30kg	は種又は定植前	1回	全面土壌混和。つまみ菜、間引き菜には使用しない	/		
			21	オラルク粉剤	20kg	は種前又は定植前	2回以内	全面土壌混和	/	/	
は種前	キスジノミハムシ、ネキリムシ類	3A		フォース粒剤	4kg	は種前	1回	全面土壌混和	/		
は種時	キスジノミハムシ、ネキリムシ類	1B		ダイアジノン粒剤5	6kg	は種時	1回	は種時では全面土壌混和 出芽時では土壌表面散布（ネキリムシ類の み適用）	/		
生育期	白さび病		21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	予防的に散布する	/	/	/
			11	アミスター20フロアブル	2,000倍	7日前まで	2回以内		/	/	
	アブラムシ類		4A	モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	7日前まで	1回	キスジノミハムシにも適用あり	/		
			3A	アグロスリン乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/	
	コナガ		15	カスケード乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	アオムシ・マメハモグリバエにも適用あり	/	/	
			6	アフーム乳剤	2,000倍	3日前まで	2回以内		/	/	
		28	プレバソフロアブル5	2,000倍	前日まで	2回以内	ハモグリバエ類にも適用あり	/	/		

# トマトの防除薬剤

## 【害虫防除】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

作業	適用のある害虫								IRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	ハダカバエ類	アブラムシ類	アザミウマ類	コナジラミ類	トモバシラ	ナミハダニ	オオタバコガ	ハダカバエ			倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
育苗後半	○	○	○	○					28	ベリマークSC	25ml/400株	育苗後半～定植当日	1回	株当たり25ml 灌漑処理 浸透移行性あり、残効性あり	/					
定植時	○	○		○					4A	ベストガード粒剤	2g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和	/					
生育期				ハダカバエ			○	○	15	アタブロン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	脱皮阻害作用があるので遅効性	/	/	/			
		○		ハダカバエ			○	○	3A	アディオン乳剤	3,000倍	前日まで	3回以内	ピレスロイド剤特有の速効的ノックダウン効果を示す	/	/	/			
		○		ハダカバエ	○		○	○	6	アファーム乳剤	2,000倍	前日まで	5回以内		/	/	/	/	/	/
		○		ハダカバエ	○		○	○	29	ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない	/	/	/			
		○		ハダカバエ	○		○	○	30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/	/			
				ハダカバエ	○		○	○	13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/			
				ハダカバエ	○		○	○	4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/	/			
				ハダカバエ	○		○	○	4A	ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/			
		○	○	ハダカバエ	○		○	○	5	ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		/	/	/			
		○		ハダカバエ	○		○	○	28	プレバソフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり	/	/	/	/	/	
			○	ハダカバエ	○		○	○	UN	プレオフロアブル	1,000倍	前日まで	2回以内		/	/	/			
		○	○	ハダカバエ	○		○	○	4A	ベストガード水溶剤	1,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/			
	○	○	ハダカバエ	○		○	○	4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/				
		○	ハダカバエ	○		○	○	23	モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	遅効性のため早めに使用する 浸透移行性あり、残効性あり	/	/	/	/	/		

※ミカンキイロは、ミカンキイロアザミウマ

※タバコは、タバココナジラミ類（シルバリーフコナジラミを含む）

※オンシツは、オンシツコナジラミ

## 【病害防除】

作業	適用のある病害								FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	疫病	苗立枯病	輪紋病	すすかび病	葉かび病	灰色かび病	菌核病	うどんこ病			倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
育苗期		○							M4	オーソサイド水和剤80	800倍	は種後から2～3葉期	5回以内	mあたり2株をジョウロまたは噴霧器で灌漑。 ベンチオオラドを含む剤（アフェットフロアブル、ベジセイバー）の総使用回数は3回以内。	/	/	/	/	/
生育期				○	○	○	○	○	7	アフェットフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	高温時の散布で薬害のおそれあり。 浸透性展着剤のニースは使用しない。	/	/	/	/	/
				○	○	○	○	○	11	アミスター20フロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	/	/	/	/	/
				○	○	○	○	○	1+10	ゲッター水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	TPNを含む剤（ダコニール1000、プロボース顆粒水和剤、ベジセイバー）の総使用回数は4回以内。	/	/	/	/	/
		○	○	○	○	○	○	○	M5	ダコニール1000	1,000倍	前日まで	4回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	/	/	/	/	/
				○	○	○	○	○	40+M5	プロボース顆粒水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	/	/	/	/	/
				○	○	○	○	○	3+M3	テーク水和剤	800倍	前日まで	2回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	/	/	/	/	/
				○	○	○	○	○	3	トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	高温時の散布で薬害のおそれあり。 予防的に散布する。	/	/	/	/	/
				○	○	○	○	○	9	フルピカフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	ベンチオオラドを含む剤（アフェットフロアブル、ベジセイバー）の総使用回数は3回以内。 TPNを含む剤（ダコニール1000、プロボース顆粒水和剤、ベジセイバー）の総使用回数は4回以内。	/	/	/	/	/
				○	○	○	○	○	7+M5	ベジセイバー	1,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	/	/	/	/	/
				○	○	○	○	○	M7	ベルコート水和剤	3,000倍	前日まで	3回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	/	/	/	/	/
			○	○	○	○	○	21	ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内		/	/	/	/	/	
			○	○	○	○	○	2	ロブラール500アクア	1,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/	/	/	
			○	○	○	○	○	11+7	シグナムWDG	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/	/	/	/	

# ミニトマトの防除薬剤

## 【害虫防除】

作業	適用のある害虫								IRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	ハダカバエ類	アブラムシ類	アザミウマ類	コナジラミ類	トモバシラ	ナミハダニ	オオタバコガ	ハダカバエ			倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
育苗後半	○	○	○	○					28	ベリマークSC	25ml/400株	育苗後半～定植当日	1回	株当たり25ml 灌漑処理。 浸透移行性あり、残効性あり。	/					
定植時	○	○		○					4A	ベストガード粒剤	2g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和。	/					
生育期				ハダカバエ			○	○	3A	アーデント水和剤	1,000倍	前日まで	2回以内	ハスモンヨトウにも適用あり。	/	/	/			
				ハダカバエ			○	○	15	アタブロン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	/	/	/	/	/	
				ハダカバエ	○		○	○	6	アファーム乳剤	2,000倍	前日まで	5回以内	ハスモンヨトウにも適用あり。	/	/	/	/	/	
		○		ハダカバエ	○		○	○	29	ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	ナミハダニにも適用あり。	/	/	/	/	/	
				ハダカバエ	○		○	○	30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/	/			
				ハダカバエ	○		○	○	13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/			
				ハダカバエ	○		○	○	4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/	/			
		○	○	ハダカバエ	○		○	○	4A	ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/			
				ハダカバエ	○		○	○	5	ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内	ハスモンヨトウにも適用あり。	/	/	/	/	/	
				ハダカバエ	○		○	○	28	プレバソフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	/	/	/	/	/	
		○	○	ハダカバエ	○		○	○	4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/	/	/	
			○	ハダカバエ	○		○	○	23	モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	遅効性のため早めに使用する 浸透移行性あり、残効性あり	/	/	/	/	/	

※ミカンキイロは、ミカンキイロアザミウマ

※タバコは、タバココナジラミ類（シルバリーフコナジラミを含む）

## 【病害防除】

作業	適用のある病害								FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	疫病	輪紋病	葉かび病	灰色かび病	菌核病	うどんこ病	倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数			使用回数	1回目	2回目		3回目	4回目	5回目		
生育期			○	○	○	○	○	○	7	アフェットフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	/	/	/		
			○	○	○	○	○	○	1+10	ゲッター水和剤	1,500倍	前日まで	3回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。	/	/	/		
		○	○	○	○	○	○	○	M5	ダコニール1000	1,000倍	前日まで	2回以内	予防的に散布する。	/	/	/		
			○	○	○	○	○	○	3	トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。 すすかび病にも適用あり。	/	/	/	/	/
			○	○	○	○	○	○	9	フルピカフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	高温時の散布で薬害のおそれあり。	/	/	/	/	/
			○	○	○	○	○	○	M7	ベルコート水和剤	6,000倍	前日まで	2回以内	予防的に散布する。	/	/	/		
		○	○	○	○	○	○	○	M3	ペンコゼフロアブル	1,000倍	前日まで	2回以内	ペンコゼフロアブルは、すすかび病にも適用あり。	/	/	/	/	/
			○	○	○	○	○	○	21	ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内		/	/	/	/	/
		○	○	○	○	○	○	11+7	シグナムWDG	2,000倍	前日まで	2回以内	すすかび病にも適用あり。	/	/	/	/	/	

# とうもろこしの防除薬剤（スイートコーン）

## 【害虫防除】

作業	適用のある害虫				IRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）			
	アブラムシ類	アワメイガ	アヲトウ	オオタバコガ			倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目
生育期	○	※			3A	アディオン乳剤	3,000倍	14日前まで	4回以内	※2,000倍でアワノメイガに適用あり。	/	/	/	/
	○				4A	モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/	/
		○			1A	デナボン粒剤5	4～6kg	21日前まで	2回以内	雄穂抽出期～雌穂抽出期	/	/	/	/
		○	○		3A	トレボン乳剤	1,000倍	7日前まで	4回以内		/	/	/	/
		○		○	28	フェニックス顆粒水溶剤	4,000倍	前日まで	2回以内		/	/	/	/
	○		○	28	プレバソフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	/	/	/	/	

# きゅうりの防除薬剤

## 【害虫防除】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

作業	適用のある害虫					IRAC コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	アブラムシ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハダニ類	ウリノメイガ			回数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
定植時	○	○	○			1B	ジェイエース粒剤	3~6kg (1~2g/株)	定植時	1回	定植時、作業散布又は種穴処理。	/					
	○	○	○			4A	スタークル粒剤	2g/株	定植時	1回	種穴土壌混和	/					
	○	○	○			28	プリロックス粒剤オメガ	2g/株	育苗期後半 ~定植時	1回	株元散布。ハモグリバエ類にも適用あり。	/					
生育期	○	○	○			3A	アディオン乳剤	3,000倍	前日まで	3回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用をさける。	/	/	/			
	○	○	○			16	アフロード水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内	成虫を直接殺す作用がないので幼虫主体の時期に散布。	/	/	/			
	○	○	○			29	ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	/	/	/			
	○	○	○			30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内	ハモグリバエ類にも適用あり。	/	/	/			
	○	○	○			13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/			
	○	○	○			6	コロマイト乳剤	1,500倍	前日まで	2回以内	1,000倍でハモグリバエ類にも適用あり。	/	/	/			
	○	○	○			4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内	ジノテフランを含む剤（スタークル顆粒水溶剤、スタークル粒剤）の総使用回数は3回以内とする。	/	/	/			
	○	○	○			5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	前日まで	2回以内	ハモグリバエ類にも適用あり。	/	/	/			
	○	○	○			28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内	ハスモンヨトウにも適用あり。	/	/	/			
	○	○	○			21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	前日まで	2回以内	うどんこ病・べと病・褐斑病にも適用あり。（FRACコード39）	/	/	/			
	○	○	○			1B	マラソン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	1,000倍でウリハムシに適用あり。	/	/	/			
○	○	○			4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/				
○	○	○			23	モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	遅効性のため早めに使用する。	/	/	/				

※オンシツはオンシツコナジラミ ※ミカンキイロはミカンキイロアザミウマ

## 【病害防除】

作業	適用のある病害										FRAC コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	うどんこ病	べと病	斑点細菌病	褐斑病	炭疽病	灰色かび病	菌核病	つる枯病	黒星病	その他			回数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
定植時			○								P2	オリゼメート粒剤	6~7.5kg (5g/株)	定植時	1回	種穴土壌混和	/					
生育期	○					○	○				7	アフェットフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	/	/	/			
	○	○	○								24+M1	カスミンボルドー	1,000倍	前日まで	5回以内		/	/	/	/	/	
	○										NC	カリグリーン	800倍	前日まで	—	展着剤を必ず加用する。	/	/	/	/	/	
	○				○	○	○	○	○		1	トップジンM水和剤	2,000倍	前日まで	5回以内	チオファネートメチルを含む剤（トップジンM水和剤、グッター水和剤）の総使用回数は5回以内とする。	/	/	/	/	/	
				○	○	○	○				1+10	グッター水和剤	1,500倍	前日まで	5回以内		/	/	/	/	/	
				○	○	○	○				10+2	スミブレンド水和剤	1,500倍	前日まで	5回以内	ジエトフェンカルブを含む剤（グッター水和剤、スミブレンド水和剤）の総使用回数は5回以内とする。	/	/	/	/	/	
	○	○		○	○	○			○		M5	ダコニール1000	1,000倍	前日まで	12回以内	TPNを含む剤（ダコニール1000、プロボース顆粒水和剤、ドーシャスフロアブル）の総使用回数は12回以内とする。	/	/	/	/	/	
	○	○		○	○	○			○		40+M5	プロボース顆粒水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/	/	/	
	○	○		○	○				○		21+M5	ドーシャスフロアブル	1,000倍	前日まで	4回以内	シアソファミドを含む剤（ドーシャスフロアブル、ランマンフロアブル）の総使用回数は4回以内とする。	/	/	/	/	/	
		○								○	21	ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内		/	/	/	/	/	
	○								○	○	3	トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。	/	/	/	/	/	
	○	○	○	○	○				○	○	M3	ジマンダイセン水和剤	600倍	前日まで	3回以内		/	/	/	/	/	
	○			※	○	○					M7	ベルコート水和剤	4,000倍	前日まで	7回以内	※2,000倍で褐斑病に適用あり。	/	/	/	/	/	
	○										M10	モレスタン水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内	予防、治療効果あり。コナジラミ類にも適用あり。（IRACコードUN）	/	/	/	/	/	
○									○	3	ラリー水和剤	5,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。	/	/	/	/	/		
									○	2	ロプラール500アクア	1,000倍	前日まで	4回以内	予防的に散布する。	/	/	/	/	/		
	○									45+40	ザンプロDMフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/	/	/		

# なすの防除薬剤

## 【害虫防除】

作業	適用のある害虫										IRAC コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	アブラムシ類	ヨトウムシ	コナジラミ類	アブラムシ類	ハダニ類	アザミウマ類	ウリノメイガ	ハモグリバエ類	ミカンキイロ	アザミウマ類			回数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
定植時	○		○								4A	スタークル粒剤	1g/株	定植時	1回	種穴土壌混和	/					
	○										4A	アドマイヤー1粒剤	1~2g/株	定植時	1回	種穴又は株元土壌混和。根に直接ふれないように注意。	/					
	○		○								28	プリロックス粒剤オメガ	2g/株	育苗期後半 ~定植時	1回	株元散布	/					
生育期	○		○								3A	アディオン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/			
	○		○								29	ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	/	/	/			
			○		○	○	○	○	○	○	30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/	/			
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内		/	/	/	/	/	
			○								6	コロマイト乳剤	1,500倍	前日まで	2回以内	水なすに使用しない。炎天下を避け夕方に散布する。	/	/	/			
			○								25A	スターマイトフロアブル	2,000倍	前日まで	1回		/	/	/			
	○		○	○					○	○	4A	ダントツ水溶剤	4,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/			
			○								5	ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		/	/	/			
			○								28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/			
			○								UN	プレオフロアブル	1,000倍	前日まで	4回以内		/	/	/	/	/	
	○		※	○							4A	モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	前日まで	3回以内	※コナジラミ類には2,000倍で散布する。	/	/	/	/	/	
○		○							○	23	モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/	/	/		

●オンシツはオンシツコナジラミ ●ミナミキイロはミナミキイロアザミウマ

## 【病害防除】

作業	適用のある病害								FRAC コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	菌核病	すすかび病	半身萎凋病	うどんこ病	灰色かび病	黒枯病	褐色腐敗病	褐斑病			回数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
生育期		○		○					11	アミスター20フロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。浸透性を高める効果のある展着剤（ニース等）は使用しない。	/	/	/	/	/
		○		○					3	トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。	/	/	/	/	/
		○		○	○	○			M5	ダコニール1000	1,000倍	前日まで	※4回以内	※TPNを含む剤（ダコニール1000、プリザード水和剤）の総使用回数は4回以内とする。	/	/	/	/	/
		○		○	○	○			27+M5	プリザード水和剤	1,500倍	前日まで	※3回以内		/	/	/	/	/
		○		○	○	○			M7	ベルコート水和剤	3,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/	/	/
				○				○	1	ベンレート水和剤	500倍	前日まで 定植後~ 14日前まで	3回以内	1株当たり200~300ml土壌灌注。	/	/	/	/	/
								○	21	ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	予防的に散布する。	/	/	/	/	/
								2	ロプラール500アクア	1,500倍	前日まで	4回以内	予防的に散布する。	/	/	/	/	/	

# ばれいしょの防除薬剤

## 【病害虫防除】

月	作業	適用のある病害虫	IRAC コード	FRAC コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
						回数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
4月	種付前	ケラ、ネキリムシ類	1B		ダイアジノン粒剤5	4~6kg	種付前	1回	全面土壌混和又は作業土壌混和。	/					
5月	生育期	疫病、夏疫病		M5	ダコニール1000	1,000倍	7日前まで	5回以内	予防的に散布する	/	/	/	/	/	/
		アブラムシ類		4A	アクタラ顆粒水溶剤	3,000倍	14日前まで	3回以内	2,000倍でテントウムシダマシ類にも適用あり。	/	/	/	/	/	
6月	生育期	疫病、夏疫病、菌核病		29	フロンサイド水和剤	2,000倍	14日前まで	4回以内	予防的に散布する	/	/	/	/	/	
		アブラムシ類、オオニジュウヤホシテントウ		4A	アドマイヤー顆粒水和剤	15,000倍	14日前まで	2回以内		/	/	/	/	/	
		疫病		21	ランマンフロアブル	1,000倍	7日前まで	4回以内	予防的に散布する	/	/	/	/	/	

# キャベツの防除薬剤

## 【病害虫防除】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

月	作業	適用のある病害虫	IRAC コード	FRAC コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
						倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
8月	定植前	根こぶ病		36	ネビジン粉剤	20~30kg	は種又は定植前	2回以内	全面土壌混和	/	/			
				21	オラクル粉剤	30kg	定植前	2回以内		/	/			
	定植時	アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ	1B		ジェイエース粒剤	3~6kg (1~2g/株)	定植時	1回	定植時植穴処理。根に直接ふれないように。	/				
		ネキリムシ類	3A		フォース粒剤	4kg	定植時	1回	全面土壌混和	/				
発生時	ナメクジ類、カタツムリ類	未分類		スラゴ	5g/m <sup>2</sup>	発生時	—	ナメクジ類、カタツムリ類の発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置。	/	/	/	/	/	
9月	生育期	コナガ、アオムシ、ウワバチ類、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、アザミウマ類、ハイマダラノメイガ	30		グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内		/	/			
		べと病		M3	ジマンダイセン水和剤	400倍	30日前まで	3回以内		/	/	/		
		黒腐病、黒斑細菌病、軟腐病		31+24	カセット水和剤	1,000倍	7日前まで	3回以内		/	/	/		
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、アザミウマ類	4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	3日前まで	2回以内		/	/			
		ヨトウムシ、オオタバコガ、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、アザミウマ類、ウワバチ類	5		ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		/	/			
		ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ、ウワバチ類、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ	UN		プレオフロアブル	1,000倍	7日前まで	2回以内		/	/			
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ、アザミウマ類	21A	39	ハチハチ乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内		/	/			
べと病、根朽病		M5	ダコニール1000	1,000倍	14日前まで	2回以内		/	/					
10月	生育期	アオムシ、ウワバチ類、オオタバコガ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	28		プレバゾンフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する	/	/	/		
		オオタバコガ、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、タナギンウバ、ハスモンヨトウ、アブラムシ類	3A+1B		ハクサップ水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	浸透移行性あり。	/	/	/	/	
									抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける。	/	/	/	/	

● 展着剤は、水和剤、フロアブルに加入する。

# はくさいの防除薬剤

## 【病害虫防除】

月	作業	適用のある病害虫	IRAC コード	FRAC コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
						倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
8月	は種前 定植前	根こぶ病		36	ネビジン粉剤	20~30kg	は種又は	1回	全面土壌混和	/				
				21	オラクル粉剤	30kg	定植前	2回以内		/	/			
	定植時	アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ	1B		ジェイエース粒剤	3~6kg (1~2g/株)	定植時	1回	定植時植穴処理。根に直接ふれないように。	/				
		ネキリムシ類	3A		フォース粒剤	4kg	定植時	1回	全面土壌混和	/				
発生時	ナメクジ類、カタツムリ類	未分類		スラゴ	5g/m <sup>2</sup>	発生時	—	ナメクジ類、カタツムリ類の発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置。	/	/	/	/	/	
9月	生育期	コナガ、アオムシ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、ハイマダラノメイガ、オオタバコガ、アザミウマ類、ウワバチ類	30		グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内		/	/			
		べと病、黒斑病、白斑病		M3	ジマンダイセン水和剤	600倍	30日前まで	1回		/				
		軟腐病、黒斑細菌病		31+24	カセット水和剤	1,000倍	21日前まで	2回以内	予防的に散布する	/	/			
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ	4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/			
		ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ	UN		プレオフロアブル	1,000倍	7日前まで	2回以内		/	/			
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ	21A	39	ハチハチ乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内		/	/			
		べと病、黒斑病、白斑病、白さび病		M5	ダコニール1000	1,000倍	7日前まで	2回以内	予防的に散布する	/	/			
10月	生育期	白さび病、べと病、ビシウム腐敗病		21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	4回以内	予防的に散布する	/	/	/	/	
		アオムシ、オオタバコガ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	28		プレバゾンフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	/	/	/		
		アブラムシ類、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ、タナギンウバ、ハスモンヨトウ	3A+1B		ハクサップ水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける。	/	/	/	/	

# だいこんの防除薬剤

## 【病害虫防除】

（秋冬取り）

月	作業	適用のある病害虫	IRAC コード	FRAC コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
						倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
8月	は種前 定植前	ネグサレセンチュウ、ネコバセンチュウ	1B		ネマトリンエース粒剤	20kg	は種前	1回	全面土壌混和	/				
		キスジノミハムシ、アブラムシ類	4A		スタークル粒剤	6kg	は種時	1回	播溝土壌混和	/				
		アブラムシ類、キスジノミハムシ、アオムシ、コナガ、カブラハバチ類、ネキリムシ類、ハイマダラノメイガ	28		プリロソリ粒剤オメガ	6kg	は種時	1回	播溝土壌混和	/				
	定植時	ネキリムシ類	1A		デナボン5%ベイト	3~6kg	30日前まで	4回以内	株元散布	/	/	/	/	
黒斑細菌病、軟腐病			31+24	カセット水和剤	1,000倍	14日前まで	3回以内		/	/	/			
9月	生育期	ナメクジ類、カタツムリ類	未分類		スラゴ	5g/m <sup>2</sup>	発生時	—	ナメクジ類、カタツムリ類の発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置。	/	/	/	/	
		コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、ハイマダラノメイガ、カブラハバチ類、ハモグリバエ類	28		プレバゾンフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
		アブラムシ類、キスジノミハムシ、アオムシ、コナガ、カブラハバチ	4A		モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	14日前まで	1回		/				
		アブラムシ類、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ、カブラハバチ	3A+1B		ハクサップ水和剤	2,000倍	35日前まで	3回以内		/	/	/		
10月	生育期	白さび病、ワッカ症		21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	予防的に散布する	/	/	/		
		アオムシ、コナガ、キスジノミハムシ	5		スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	7日前まで	3回以内		/	/	/		
		アブラムシ類、ダイコンハムシ	4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	アブラムシが多い場合	/	/			

# せいさいの防除薬剤

## 【病害虫防除】

農薬検索（せいさいは非結球アブラナ科葉菜類・たかなに含まれます）

月	作業	適用のある病害虫	IRAC コード	FRAC コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）		
						倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目
9月	は種前 定植前	根こぶ病		36	ネビジン粉剤	20~30kg	は種又は	1回	全面土壌混和	/		
				21	オラクル粉剤	20~30kg	定植前	2回以内		/	/	
	は種時	ネキリムシ類、キスジノミハムシ	3A		フォース粒剤	4kg	は種前	1回	全面土壌混和	/		
		アブラムシ類、キスジノミハムシ	4A		スタークル粒剤	6kg	は種時	1回	播溝土壌混和	/		
10月	生育期	コナガ	28		プレバゾンフロアブル5	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/	
		白斑病		11	ストロビーフロアブル	3,000倍	7日前まで	2回以内	単用散布。予防的に散布する	/	/	
		コナガ、アオムシ、ヨトウムシ	6		アフーム乳剤	2,000倍	7日前まで	3回以内		/	/	
11月	生育期	白さび病		21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	予防的に散布する	/	/	
		アブラムシ類、キスジノミハムシ	4A		モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	7日前まで	1回		/		

# えだまめの防除薬剤

## 【病害虫防除】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

作業	適用のある病害虫	IRACコード	FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）		
					倍数・使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目
は種前	紫斑病、苗立枯病、タネバエ カラス、ハト		M3	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子 1kg当り 20ml (原液塗沫処理)	は種前	1回	カラス・ハトは豆類(未成熟)で適用あり。 チウラム剤処理種子には使用しない。	/		
	アブラムシ類、ネキリムシ類、タネバエ	4A	12+4	クルーザーMAXX	乾燥種子 1kg当り 8ml (原液塗沫処理)	は種前	1回	水生動物に影響を及ぼすおそれがあるので、 使用残液及び容器の洗浄水等は河川等に 流さず適切に処理する。	/		
は種時	ネキリムシ類、タネバエ	1B		カルホス微粒剤F	6kg	は種時	1回	土壌表面散布、土壌混和処理	/		
	アブラムシ類	4A		アドマイヤー1粒剤	3kg	は種時	1回	播溝土壌混和	/		
生育期	べと病		11	アミスター20フロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	/	/	/	
	べと病、茎疫病、斑点細菌病		40+M1	フェスティバルC水和剤	600倍	前日まで	3回以内	/	/	/	
	菌核病、灰色かび病		2	ロブラール水和剤	1,000倍	30日前まで	3回以内	予防的に散布する。	/	/	/
	炭汚損症、紫斑病		1+10	ゲッター水和剤	1,500倍	7日前まで	3回以内	/	/	/	
	アブラムシ類、アザミウマ類、コガネムシ類、ハダニ類	1B		マラソン乳剤	2,000倍	7日前まで	3回以内	1,000倍でマメシクイガ、ハモグリハエ類に適用あり。	/	/	/
	アブラムシ類、カメムシ類、フタスジヒメハムシ	4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内	/	/	/	
	アブラムシ類、ハモグリハエ類、カメムシ類、ダイズサヤタマハエ	4A		スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	3,000倍でフタスジヒメハムシに適用あり。	/	/	/
	マメシクイガ、カメムシ類、フタスジヒメハムシ	3A		アグロスリン乳剤	2,000倍	7日前まで	3回以内	/	/	/	
	ウコンノメイガ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、マメシクイガ	28		ブレバソフフロアブル5	4,000倍	3日前まで	3回以内	/	/	/	
	マメシクイガ、カメムシ類、ハスモンヨトウ	3A		トレボン乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内	/	/	/	
ハスモンヨトウ	28		フェニックスフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	4,000倍でウコンノメイガ、ネキリムシ類に適用あり。	/	/	/	

# カリフラワー・ブロッコリーの防除薬剤

## 【病害虫防除】

月	作業	適用のある病害虫	IRACコード	FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
						倍数・使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
8月	育苗期後半	アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ	28		ベリマークSC	400倍	育苗期後半 ～定植当日	1回	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパー ポット1冊(約30×60cm、使用土壌 約1.5～4%)当り0.5%濃度で注する。	/				
	定植前	根こぶ病		36	ネビジン粉剤	20～30kg	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	/				
	は種時 又は 定植時	ネキリムシ類、ケラ	1B		ダイアジノン粒剤5	4～6kg	は種時又は 定植時	2回以内	全面土壌混和又は作条土壌混和 但し粒剤の生育期の処理は1回以内	/	/			
9月	生育期	アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ	28		ブレバソフフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	/	/	/			
		黒斑細菌病、花蕾腐敗病		M1	クプロシールド	1,000倍	-	-	薬害が生ずる恐れがあるため、花 蕾形成期までに散布する。はなや さい類で登録。	/	/	/	/	/
		アブラムシ類	29		ウララDF	2,000倍	14日前まで	2回以内	ブロッコリーの使用時期は前日まで	/	/			
10月	生育期	アザミウマ類、アブラムシ類	1B		マラソン乳剤	2,000～3,000倍	3日前まで	5回以内	/	/	/	/	/	
		アザミウマ類、ウツバハエ類、アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ	30		グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	はなやさい類で登録。	/	/			
		アブラムシ類、コナガ、アオムシ	4A		モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	7日前まで	3回以内	ブロッコリーの使用時期は14日前まで	/	/	/		

● 展着剤は、水和剤に加用する。

## 野菜除草剤主要適用作物

作物名	ねぎ	ほうれんそう	こまつな	トマト	ミニトマト	とうもろこし	きゅうり	なす	ばれいしょ	キャベツ	はくさい	だいこん	せいさい	えだまめ	備考
バスタ液剤	収穫前日まで 2回以内	収穫7日前まで 1回以内		収穫前日まで 3回以内		収穫7日前まで 3回以内	収穫前日まで 3回以内	収穫前日まで 3回以内	収穫21日前まで 2回以内	収穫45日前まで 2回以内	収穫7日前まで 2回以内	は種前 は種後5日前まで 収穫前日まで 3回以内			*1参照
ザクサ液剤	収穫前日まで 2回以内	は種前又は種間処理 収穫7日前まで 2回以内		定植前又は種間処理 収穫前日まで 3回以内		定植前又は種間処理 収穫前日まで 3回以内	定植前又は種間処理 収穫前日まで 3回以内	定植前又は種間処理 収穫前日まで 3回以内	種間処理 収穫21日前まで 2回以内	定植前又は種間処理 収穫45日前まで 2回以内	は種、定植前又は 種間処理 収穫45日前まで 2回以内	種間処理 収穫14日前まで 3回以内	は種、定植前又は 種間処理 収穫14日前まで 3回以内		
サンダーボルト07	定植7日前まで 3回以内	定植7日前まで 1回	定植7日前まで 1回	定植7日前まで 1回	定植7日前まで 1回		定植7日前まで 1回	定植7日前まで 1回	定植7日前まで 1回	定植7日前まで 1回	は種7日前まで 1回	定植7日前まで 1回	定植7日前まで 1回	は種10日前まで 1回	1. 土壌が凍りたり、崩れたりする おそれのある所では使用しない。 *2参照
ラウンドアップマックスロード	定植後種間処理 収穫30日前まで 3回以内	耕起前又は は種前まで 3回以内	耕起前まで 1回	耕起前まで 1回		出芽前まで 2回以内	収穫前日まで 2回以内	耕起前又は 種付前まで 1回	耕起前又は 定植5日前まで 1回	耕起前又は 定植5日前まで 1回	収穫5日前まで 2回以内	耕起前まで 1回	収穫前日まで 2回以内		*2参照
草枯らし	定植後種間処理 収穫30日前まで 3回以内		耕起又は定植7日前まで 1回				耕起又は定植7日前まで 1回	耕起又は定植7日前まで 1回	耕起又は定植7日前まで 1回	耕起又は定植7日前まで 1回	耕起又はは種7日前まで 1回	耕起又は 定植7日前まで 1回	は種7日前まで 1回		1. 展着剤の加用は必要ない。 2. 散布前に雑草の地上部を刈り払 わない。 *2参照
トレファノサイド粒剤2.5	定植後但し 収穫30日前まで 2回以内 (雑草発生前)			(露地) 定植前(種穴掘前) 1回			(露地・移植) 定植前(種穴掘前) 1回	(露地) 定植前 (種穴掘前) 1回	種付後～萌芽前 1回	(移植) 定植前(種穴掘前) 1回	(移植) 定植前(種穴掘前) 1回			は種後出芽前 1回	*3参照
トレファノサイド乳剤			は種後 1回 (非結球あひらな科 葉菜類として登録)				(露地・移植) 定植前(種穴掘前) 1回	(露地) 定植前 (種穴掘前) 1回		(移植) 定植前(種穴掘前) 1回 (直播) は種後 1回	(直播) は種後 1回	(露地) は種後 1回	は種後 1回		
ラッソー乳剤		は種後 1回				は種後出芽前 1回				定植8日後まで 1回	は種後 1回	は種後 1回		は種後出芽前 1回	1. 砂壌土では使用しない。 2. 雑草発生後は効果が無いので 発芽前に散布する。
アーザラン液剤		は種後～ 子葉展開期 1回													1. 子葉展開期以降は品種により 差害のおそれがあるので、使 用しない。
ゴーゴーサン乳剤	定植後但し 定植10日後まで 1回					は種後出芽前 1回			種付後萌芽前 1回	定植前 1回	定植前 1回				1. キク科雑草及びビロウ科に 効果がある。 2. 必ず雑草発生前に散布する。
ブリグロックSL	・は種前又は種付前 ・種間処理 収穫30日前まで 3回以内	・は種前又は種付前 ・種間処理 収穫14日前まで 3回以内	は種前又は種付前 3回以内	・は種前又は種付前 ・種間処理 収穫14日前まで 3回以内	は種前又は種付前 3回以内	種間処理 収穫3日前まで 5回以内	・は種前又は種付前 ・種間処理 収穫3日前まで 3回以内	・は種前又は種付前 ・種間処理 収穫3日前まで 3回以内	・萌芽前 ・種間処理 収穫前日まで 2回以内	・は種前又は種付前 ・種間処理 収穫30日前まで 3回以内	・は種前又は種付前 ・種間処理 収穫30日前まで 3回以内	・は種前又は種付前 ・種間処理 収穫30日前まで 3回以内	は種前又は種付前 3回以内	種間処理 収穫14日前まで 4回以内	1. 極めて即効性のため、作物への 直播散布は控える。
ナブル乳剤	収穫30日前まで 1回	収穫7日前まで 1回		収穫14日前まで 1回					収穫前日まで 2回以内		収穫14日前まで 1回		収穫7日前まで 1回	収穫14日前まで 1回	1. イネ科雑草(スズメノカタビラ を除く)にのみ殺草作用あり。 2. イネ科雑草3～5葉期に 使用すること。
ロックス	(露地) 定植後但し 収穫30日前まで 1回 (雑草発生前)					は種後 1回			種付直後～萌芽前 1回					本業3葉期以降 収穫30日前まで 1回	1. 生育の進んだ雑草には効果が劣 る場合があるので、時期を失し ないように散布する。 2. 砂壌土では使用しない。
クレマート乳剤	定植後種間処理 定植10日後まで 1回 (雑草発生前)						定植前 1回 (雑草発生前)	定植前又は 定植・マルチ前 1回 (雑草発生前)	種付後萌芽前 1回 (雑草発生前)	定植前 1回 (雑草発生前)					1. 発芽前処理剤なので、必ず雑草 の発芽前に処理する。

※使用する前に、必ず農薬のラベルをよく確認して下さい。

\*1. バスタ液剤・ザクサ液剤は、同一成分であるグルホシネートを含んでいるため総使用回数に注意する。

\*2. サンダーボルト07・ラウンドアップマックスロード・草枯らしは、同一成分であるグリホサートを含んでいるため総使用回数に注意する。  
散布前に雑草の地上部を刈り払わない。

\*3. 薬害のおそれがあるため、なす(露地)に使用する場合、定植3日前までに使用する。  
トレファノサイド粒剤2.5・トレファノサイド乳剤は、同一成分であるトリフルラリンを含んでいるため総使用回数に注意する。  
必ず雑草発生前に散布する。

# 果樹病虫害防除基準

## 総合防除

### 耕種的防除、物理的防除、化学的防除を組み合わせた防除

- 病虫害に侵された葉、枝、果実を取り除き、適切に処分する。
- 夏期管理においても徒長枝や邪魔な枝の剪除に努め、薬剤が十分にかかるようにする。
- 越冬病虫害の密度を下げるために粗皮けずりを行う。清耕栽培か中耕栽培を行い、草生園でも草刈り、除草を徹底する。
- 樹勢が弱まると病虫害に侵されやすくなるので、土づくり肥料や有機質などの適正量の投入により健全な樹勢を保つ。
- 枝や幹に薬剤を十分に散布する。
- 気象条件に合わせた防除を行う。(干ばつや継続的な降雨などの気象条件の時は特に留意する)
- 散布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に防除を行う。
- 薬剤散布を行う場合、気温25℃以上の時は散布を控える。  
(散布後、急激に温度が上がることも予想される場合も散布を控える)
- 薬剤調合時、鉄分を多く含む水は、果実の表面に障害を生じるので使用しない。

## 生物的防除

### 交信かく乱剤（性フェロモン剤）利用による防除

性フェロモンは昆虫が体外に分泌し、性行動を支配している重要な物質です。交信かく乱剤は人工的に合成した性フェロモンを園地内に充満させ、雌雄の交尾を阻害し、次世代の密度を抑制する防除方法です。

薬剤名	対象作物	設置時期	設置量(10a)	対象害虫								
				ハマキムシ類			シンクイムシ類			モモハモグリガ	コスカシバ	ヒメボクトウ
				ミダレカクモンハマキ	リンゴコカクモンハマキ	リンゴモンハマキ	モモシンクイガ	ナシヒメシンクイ	スモモヒメシンクイ			
コンフューザーN	果樹類	4月20日頃	150~200本	(○)	○	○	○	○	200本(すもも)			
コンフューザーR	果樹類(りんご)		100本	○	○	○	○	○				
コンフューザーMM	果樹類(もも)		120本	(○)	○	(○)	○	○		○		
ナシヒメコン	果樹類	4月20日頃	100本					○	○(すもも)			
	西洋なし			7月下旬	50~100本					○		
ハマキコン-N	果樹類	5月20日頃	150本	○	○	○						
スカシバコンL	果樹類		50~100本	さくらんぼ、もも、すもも(ブルーン)、うめ、かき等で使用						○		
ボクトウコン-H	果樹類	6月上旬	100本	りんご、日本なし等								○

- ※ (○) は、害虫登録はない。
- ※ 総合的に防除が可能なコンフューザーNを基本とする。

### 使用方法

交信かく乱剤の所定本数(コンフューザーN150~200本/10a)を越冬世代の発生初期の4月20日頃まで園地に設置する。設置場所は目通りの高さに8割、残り2割を園地の周辺に多めに設置することが望ましい。また、効果を高めるために、団地化を図る。

### 利用上の留意事項

- ①小面積(1ha以下)では、設置区域外にいる既交尾雌が圃場内に飛び込んで産卵するため効果が劣るので、出来るだけ地域全体で設置する。
- ②性フェロモン成分は空気よりも重いため、傾斜地や起伏の多い場所では傾斜上部の設置を1~2割多くする。
- ③対象病虫害の発生密度が高いと雌雄の遭遇確率が高くなり、交尾阻害効果が期待できなくなる。
- ④風の強い場所で利用する場合は、フェロモンの流亡を防ぐため、防風ネットなどを利用する。
- ⑤対象害虫や対象外害虫が発生した場合には、殺虫剤による補完防除が必要となるため、圃場の害虫発生動向を観察する。
- ⑥交信かく乱剤は経年的に使用することによって、対象害虫の発生密度を低減させる効果がある。

## ～ 苗木・未結実樹の防除について ～

※近年、樹脂細菌病による枝枯れや苗木の枯死が増えてきております。定植から成木までの期間は下記により防除を徹底して下さい。

### 苗木消毒

植え付け前に、トップジンM水和剤 500倍液に10分間根部を浸漬する。(対象樹種：りんご・もも・なし 植付前1回)

### ○ さくらんぼ

回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名・倍数		注意事項
1	休眠期(発芽前)	越冬病害虫	石灰硫黄合剤	10倍	(1) 定植時に発芽していない場合は、石灰硫黄合剤10倍を散布する。
	定植時 (発芽～発芽7日後)	樹脂細菌病	ICボルドー66D	40倍	
2	4月中旬～5月上旬	灰星病 褐色せん孔病 樹脂細菌病	ICボルドー66D	40倍	(1) 樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を削り取ってトップジンMペーストを塗布する。(3回以内) (2) ハマキムシ類の発生が心配される場合は、バイオマックスDF2,000倍を散布する。
3	6月10日頃	褐色せん孔病 樹脂細菌病	ICボルドー66D	40倍	(1) 害虫防除は、さくらんぼの防除基準を参考に行う。
4	7月10日頃	褐色せん孔病 炭疽病 ハダニ類	トレノックスフロアブル	500倍	
			ダニコングフロアブル	2,000倍	
5	8月10日頃	褐色せん孔病 炭疽病	ICボルドー66D または	40倍	
			トレノックスフロアブル	500倍	
6	9月上旬～9月中旬	褐色せん孔病 樹脂細菌病	ICボルドー66D	40倍	
7	落葉後 (11月上旬～12月上旬)	越冬病害虫 樹脂細菌病	石灰硫黄合剤 または	10倍	
			ICボルドー66D	40倍	

### ○ りんご・西洋なし

回数	防除時期	対象病害虫		薬剤名・倍数	注意事項	
		りんご	西洋なし			
1	休眠期(発芽前)	腐らん病 カイガラムシ類 ハダニ類	越冬病害虫 カイガラムシ類 ハダニ類	石灰硫黄合剤	10倍	
2	落花1週間後 (5月中旬)	輪紋病	輪紋病 胴枯病	トップジンM水和剤 または ベンレート水和剤	1,500倍 2,000倍	(1) 胴枯病(西洋なし)の萎凋枯死花そうや枯死枝を徹底して取り除き処分する。切口にはトップジンMペーストを塗布する。(3回以内)
3	6月中旬	輪紋病	輪紋病	ICボルドー412	30倍	
4	7月上中旬	輪紋病 (ハダニ類)	輪紋病 (ハダニ類)	ICボルドー412	30倍	(1) ハダニ類の発生が多い園地では、ダニコングフロアブル2,000倍を散布する。
5	梅雨明け直後 (7月下旬)	輪紋病	輪紋病 (胴枯病)	ICボルドー412	30倍	
6	8月中旬	輪紋病 (ナミハダニ、リンゴハダニ)	輪紋病 (ハダニ類)	ICボルドー412	30倍	(1) ナミハダニ、リンゴハダニの発生が多い園地では、ダニゲッターフロアブル2,000倍を散布する。

### ○ もも・すもも

回数	防除時期	対象病害虫		薬剤名・倍数	対象病害虫		注意事項
		もも			すもも		
1	発芽前	カイガラムシ類 ハダニ類 縮葉病	→	スプレーオイル	50倍	カイガラムシ類	
				石灰硫黄合剤	10倍	ハダニ類	
2	開花前	せん孔細菌病 縮葉病	→	ICボルドー412	30倍	黒斑病 かいう病	
3	5月中旬	灰星病・黒星病 せん孔細菌病 アブラムシ類	→	トレノックスフロアブル	500倍	炭疽病	
				マイコシールド	2,000倍	黒斑病	
				ウララDF	2,000倍	アブラムシ類	
4	5月25日頃	せん孔細菌病 灰星病・黒星病 枝折	→	トレノックスフロアブル	500倍	炭疽病	
				トップジンM水和剤	1,000倍	黒星病・灰星病	
5	6月25日頃	灰星病・黒星病 ホモブシス腐敗病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ コスカシバ・ケムシ類 ハダニ	→	ナリアWDG	2,000倍	灰星病 黒星病	
				フェニックスフロアブル	4,000倍	シンクイムシ類 ケムシ類・ハマキムシ類	
				ダニコングフロアブル	2,000倍	ナミハダニ	
6	8月10日頃	アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ	→	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	アブラムシ類 シンクイムシ類	
7	9月中旬	せん孔細菌病 縮葉病 コスカシバ	→	ICボルドー412	30倍	黒斑病 かいう病	
				フェニックスフロアブル	4,000倍	コスカシバ	

※ 新規に定植を行う場合は、排水対策を徹底し、せん孔細菌病対策として防風ネットを必ず設置する。

# 除草剤使用基準

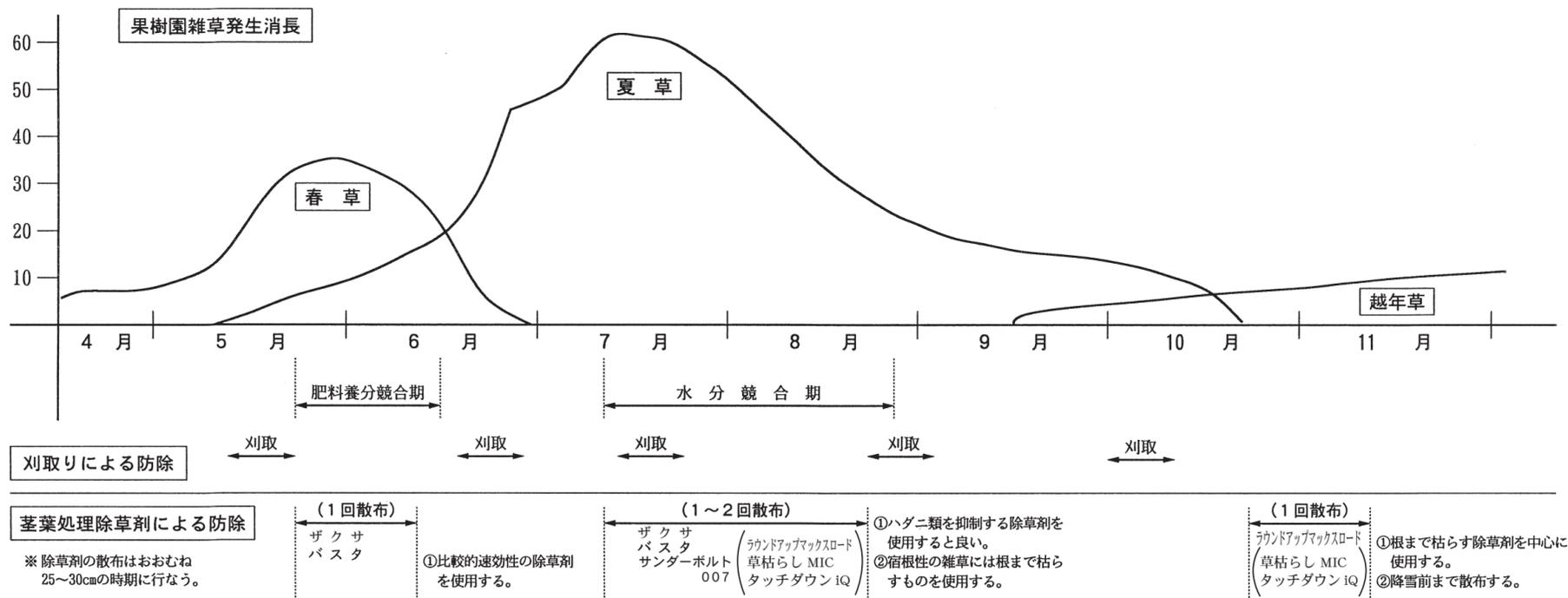
## 1 果樹園に除草剤を使用する場合の一般的留意事項

- ① 果樹は一度葉害にあうと回復するのに数年もかかることがあるので、使用にあたっては十分注意する必要がある。
- ② 散布する水量は10a当たり150ℓを標準とし、草丈の大きいときは水量を増す必要がある。普通の農薬と違い希釈倍数でなく、単位面積当たりに投下される薬量で示されるので、水の量を多少かえてもよいが、散布むらのないよう注意する。
- ③ 散布はなるべく晴天無風の日にしない、噴霧する霧を粗くして吹き上げたり、風に飛ばされたりして、果樹の枝葉（とくに下枝）にかからないようにする。できるだけ除草剤専用噴口を使用する。
- ④ 草丈が30 cm 以上になると、効果が劣るので時期を失しないように使用する。
- ⑤ 展着剤加用の場合は、除草剤専用のものを使用する。
- ⑥ 散布機具や容器は専用のものを使用する。
- ⑦ 散布に使用した器具及び容器を洗浄した水や残液は、川や池等に流入しないよう注意する。

※ **ダニ剤散布予定日の7日前に除草剤を使用する。**

## 果樹園の雑草管理(基本)

### 2 果樹園での除草剤使用時期



### 3 果樹園用主要除草剤使用方法

除草剤名	適用樹種	10a当たりの散布液量	10a当たりの使用薬量	効果の発現	効果の持続期間	使用場面	備考
タッチダウンiQ	果樹類 (かんきつを除く)	25~100ℓ <sub>スギナ(25~50ℓ)</sub>	1年生 250~500ml 多年生 500~1,000ml (スギナ 1.5~2.0ℓ)	3~5日後 7~10日後	60日	夏草生育期 秋期越年生雑草	1. 展着剤は加用しない。 2. 少量(25ℓ)散布の時は専用ノズルを使用する。
サンダーボルト007		100ℓ	1年生及び多年生 400~1,000ml	2~5日後	60~70日	春草・夏草生育期	1. 展着剤は加用せずむらなく散布する。 2. スペリヒユ(ひょう)・ギシギシに効果が高い。
草枯らしMIC		50~100ℓ	1年生 250~500ml 多年生 500~1,000ml	7~14日後		秋期越年生雑草	1. グリホサートを含む剤について下記で整理して記載する。
クサクリーン液剤		50~100ℓ	1年生 200~500ml 多年生 500~1,000ml (スギナ 1.5~2.0ℓ)	3~5日後		夏草生育期 秋期越年生雑草	1. 展着剤は加用しない。 2. 少量(25ℓ)散布の時は専用ノズルを使用する。 3. 25倍で処理すると、スギナにも効果が高い。 4. 多年生強害雑草には高濃度でスポット処理も可能。
ザクサ液剤		100~150ℓ	1年生 300~500ml 多年生 500~1,000ml	2~5日後	40~50日	春草・夏草生育期	
バスタ液剤		りんご、ぶどう、もも、なし、かき、さくらんぼ、小粒核果類、ネクタリン、ブルーベリー	100~150ℓ	1年生 300~500ml 多年生 500~1,000ml	2~5日後	40~50日	春草・夏草生育期

※ サンダーボルト007、草枯らし、クサクリーン液剤はパイナップルに適用がない。

### 4 除草剤主要適用作物

除草剤名	成分	薬剤特性	水田畦畔	ぶどう	さくらんぼ	うめ	りんご	なし	かき	もも	すもも(ブルー)	くり	樹木類	
タッチダウンiQ	グリホサートを含む剤	根まで枯らす	収穫14日前まで 2回以内				収穫5日前まで 3回以内						雑草生育期 4回以内	
サンダーボルト007			収穫14日前まで 2回以内				収穫7日前まで 3回以内						—	
草枯らしMIC			収穫14日前まで 2回以内				収穫7日前まで 3回以内							雑草生育期 4回以内
クサクリーン液剤			収穫14日前まで 2回以内				収穫7日前まで 3回以内							雑草生育期 4回以内
ラウンドアップマックスロード			収穫前日まで 3回以内				収穫7日前まで 3回以内							雑草生育期 4回以内
ザクサ液剤	グルホシネートを含む剤	地上部のみ	収穫7日前まで 2回以内	収穫前日まで 3回以内		収穫21日前まで 3回以内		収穫前日まで 3回以内				収穫30日前まで 3回以内	雑草生育期 3回以内	
バスタ液剤			収穫7日前まで 2回以内	収穫前日まで 3回以内		収穫21日前まで 3回以内		収穫前日まで 3回以内		収穫30日前まで 3回以内	雑草生育期 3回以内			

※ グリホサートを含む剤(ラウンドアップマックスロード、タッチダウンiQ、サンダーボルト007、草枯らし、クサクリーン液剤)は同一成分の為、総使用回数に注意する。

※ グルホシネートを含む剤(ザクサ液剤、バスタ液剤等)は同一成分の為、総使用回数に注意する。

※ 雑草生育期の草丈は30cm以内(作物によっては20cm以内)まで処理を行う。



# 令和7年 さくらんぼ病害虫防除暦

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	農業使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
休眠期	カイガラムシ類	① スプレーオイル 50倍 (2%)	発芽前	350%	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の続く時に使用する。 (2) 灰星病の発生を防止するため休眠期中に全面耕うんし、地表面の乾燥をはかる。 (3) 灰星病防除のため樹上のミイラ果を除去し埋没する。 (4) カイガラムシ類の発生が多い園地は、太枝にブラシかけを行い、天気の良い温暖な日を選び散布する。 (5) 前年灰星病の発生が多かった園地では、トップジンM水和剤1,000倍(14日前まで3回以内)を加用散布する。	/	
	カイガラムシ類幼虫	② アブロードフロアブル 1,000倍 (100ml)	7日前まで 2回以内				
大玉生産と摘果作業の労力削減のため、3月中旬～4月上旬に摘芽を行う。							
灰星病	幼果菌核病・灰星病 褐色せん孔病・炭疽病	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	21日前まで 5回以内	450%	(1) 訪花昆虫の活動前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。	/	
	ハマキムシ類 ケムシ類	② バイオマックスDF 2,000倍 (50g)	前日まで				
満開期 (平年 佐藤錦 4月25日頃)	幼果菌核病 褐色せん孔病	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%	(1) 前年幼果菌核病の多い園地では散布時期が遅れない様に注意する。 (2) 樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を削り取ってキズの癒合促進のため、トップジンMペーストを塗布する。(3回以内) (3) 訪花昆虫の活動前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。 (4) 前年、炭疽病の発生した園地ではオーソサイド水和剤80倍(3日前まで5回以内)を加用散布する。	/	
	灰星病 黒斑病	② ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 (33g)	前日まで 3回以内				
前回散布 7日後	灰星病 褐色せん孔病	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%	(1) 訪花昆虫の活動前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。 (2) オーソサイド水和剤80は、ももの発芽後の若葉に葉害が発生するおそれがあるため飛散に注意する。	/	
	炭疽病	② オーソサイド水和剤80 800倍 (125g)	3日前まで 5回以内				
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤を除く)の散布は行わない。							
前回散布 7日後 (5月中旬)	灰星病	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%	(1) 灰星病、ナミハダニの発生を防止するため、この時期以降園地の草刈を徹底する。 (2) ハマキムシ類の発生が多い園地では、フェニックスフロアブル4,000倍(前日まで2回以内)を加用散布する。	/	
	黒かび病	② ロブール水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内				
	オウトウショウジョウバエ カメムシ類	③ モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 1回				
フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【コスカシバ対策はスカシバコンL 50～100本/10a】							
ハダニ対策	ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。						
前回散布10日後 (5月下旬) 被覆前散布	灰星病	① スコア顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内	500%	(1) この回以降収穫が終わるまで展着剤は使用しない。 (2) <b>ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。</b> (3) テルスターフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
	ショウジョウバエ類 カメムシ類	② テルスターフロアブル 3,000倍 (33ml)	前日まで 2回以内				
	ハダニ類	③ ダニコングフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 1回				
○ 摘果が遅れた場合には、摘果した果実を適正に処理する。 ○ 果実は、適期収穫を行い、過熟果にならないうちに収穫を終了する。 ○ 病虫害果・キズ果・過熟果等のもぎ残しは、きれいに収穫し処分(土中に埋める)する。							
6月上旬	灰星病	① パレード15フロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 2回以内	500%	※この時期のショウジョウバエの発生に注意する。	/	
	オウトウショウジョウバエ カメムシ類	② スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 2回以内				
6月中旬	灰星病・黒斑病・炭疽病 褐色せん孔病	① ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内	500%	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に薬害がでるので注意する。	/	
	オウトウショウジョウバエ ハマキムシ類	② エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内				
6月下旬	灰星病・炭疽病・黒斑病 褐色せん孔病	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	500%	(1) アーデントフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
	オウトウショウジョウバエ	② アーデントフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内				
7月上旬 (晩生種)	灰星病・黒斑病・炭疽病 褐色せん孔病	① ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内	500%	(1) 今回以降、収穫が終わらない場合は、灰星病・黒斑病対策としてオンリーワンフロアブル2,000倍(前日まで3回以内)、オウトウショウジョウバエ対策としてダントツ水溶剤2,000倍(前日まで2回以内)を散布する。 (2) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に薬害がでるので注意する。	/	
	オウトウショウジョウバエ ハマキムシ類	② エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内				
褐色せん孔病・炭疽病対策として、雨よけハウスの被覆を外したら降雨前に薬剤散布を行う。							
収穫直後	せん孔病	① オキシラン水和剤 600倍 (166g)	収穫終了後～落葉期まで 3回以内	500%	(1) ダニ剤を散布する場合は、ダニ剤散布4日前に草刈を実施し、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。 (2) 今回以降、ハダニ類の発生が多い園地では、下記の殺ダニ剤のいずれかを総使用回数に注意して単用散布する。(展着剤は加用しない)	/	
	アブラムシ類 ハマキムシ類 ウメシロカイガラムシ	② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	14日前まで 2回以内				
	ハダニ類	③ ダニゲッターフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 1回				
7月下旬	せん孔病	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%	※アカリタッチ乳剤は、殺卵効果がなく、残効性も期待できないため、1週間間隔で2～3回散布する。	/	
		② オキシラン水和剤 600倍 (166g)	収穫終了後～落葉期まで 3回以内				
8月上旬	せん孔病	① オキシラン水和剤 600倍 (166g)	収穫終了後～落葉期まで 3回以内	500%	(1) 8月上旬以前にアブロードフロアブルを2回使用した場合は使用しない。 ※ウメシロカイガラムシ重点防除時期(第2回孵化期)ウメシロカイガラムシの発生が多い園地では8月上旬散布7日後にバリアード顆粒水和剤4,000倍を追加散布する。(前日まで2回以内)	/	
	カイガラムシ類幼虫	② アブロードフロアブル 1,000倍 (100ml)	7日前まで 2回以内				
9月上中旬	コスカシバ ハマキムシ類	① フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内	500%	(1) 灰星病の発生が多い園地では落葉後清耕し、越冬菌の密度を下げる。	/	
9月中旬 ～ 落葉後	褐色せん孔病 樹脂細菌病	① ICボルドー66D 40倍 (2.5kg)	—	400%	(1) 褐色せん孔病の発生が多い園地では、9月中旬に必ず散布する。さらに、翌年の越冬菌密度を低下させるため、落葉後必ず散布する。	/	

# 令和7年 もも病害虫防除暦



防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
大玉生産と摘果作業の労力削減の為、開花前までに摘らいを行う。							
発芽前 (平年発芽 3月19日頃)	カイガラムシ類 灰星病・黒星病 せん孔細菌病・縮葉病 カイガラムシ類幼虫	① スプレーオイル 50倍 (2%)	発芽前	350%	(1) 前年度の灰星病の被害果及び被害枝は徹底して除去する。	/	/
		② トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	7日前まで 5回以内				
		③ アブロードフロアブル 1,000倍 (100ml)	14日前まで 3回以内				
フェロモン剤設置時期(4月20日頃)【ハマキムシ・シンクイムシ・モモハモグリガ対策はコンフューザーMM120本/10a】							
開花前	せん孔細菌病 縮葉病	① ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	—	350%	(1) 開花始め以降は薬害が発生するので散布しない。	/	/
せん孔細菌病の伝染源となる春型枝病斑は4月下旬から7月上旬頃まで発生するので、園地を見回り病斑枝は見つけしだい基部から剪除し、癒合促進のためバッチレート(3回以内)を塗布する。せん孔細菌病は葉が傷み病気がかり易くなるので防風ネットを設置する。また、スピードスプレーヤーで防除する場合、風量を葉が傷まない程度に落として防除する。(生育期間)							
落花直後 (80%落花時)	うどんこ病・黒星病 炭疽病・灰星病 ホモフシス腐敗病 黒星病・せん孔細菌病 灰星病・ホモフシス腐敗病 ハマキムシ類・ケムシ類 モモハモグリガ・コスカシバ シンクイムシ類	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	350%		/	/
		② デランフロアブル 600倍 (166ml)	7日前まで 4回以内				
		③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内				
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤を除く)の散布は行わない。							
前回散布 10日後	灰星病・黒星病 せん孔細菌病・縮葉病 せん孔細菌病 アブラムシ類 カメムシ類・シンクイムシ類	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	7日前まで 5回以内	400%	(1) せん孔細菌病の発生が多い園地では、ICシンクイムシ水和剤1,000倍(発芽前～発芽初期8回以内)を5月中に単用で追加散布する。	/	/
		② マイコシールド 2,000倍 (50g)	21日前まで 5回以内				
		③ モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【コスカシバ対策はスカシバコンL50~100本/10a】【ハマキムシ対策はハマキコンN150本/10a(すでにコンフューザーMMを設置した場合は必要ない)】							
5月下旬 (5/25頃)	黒星病・せん孔細菌病 灰星病・ホモフシス腐敗病 カイガラムシ類・アブラムシ類 シンクイムシ類・ハマキムシ類 カイガラムシ類 アブラムシ類・ハダニ類	① デランフロアブル 600倍 (166ml)	7日前まで 4回以内	400%		/	/
		② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	前日まで 4回以内				
		③ モベントフロアブル 2,000倍 (50ml)	7日前まで 3回以内				
6月上旬	黒星病・せん孔細菌病 果実赤点病 せん孔細菌病 アブラムシ類・シンクイムシ類 モモハモグリガ	① ベンコゼブ水和剤 600倍 (166g)	21日前まで 3回以内	400%	さくらんぼ園地への飛散に注意	/	/
		② マイコシールド 2,000倍 (50g)	21日前まで 5回以内				
		③ ハリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
ハダニ対策 ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。							
6月中旬	せん孔細菌病 灰星病・ホモフシス腐敗病 アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ ハダニ類	① デランフロアブル 600倍 (166ml)	7日前まで 4回以内	400%	(1) デランフロアブルは、果実に汚れがでる場合があるので乾きやすい時間帯に使用する。 (2) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (3) 殺ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。	/	/
		② スカウトフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 5回以内				
		③ ダニコングフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 1回				
6月下旬 (6/25頃)	せん孔細菌病 灰星病・ホモフシス腐敗病 アブラムシ類・カイガラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類・カメムシ類	① デランフロアブル 600倍 (166ml)	7日前まで 4回以内	400%	(1) さくらんぼに飛散する恐れがある園地では、デランフロアブルをナリアWDG2,000倍(前日まで2回以内)に代えて散布する。(せん孔細菌病に適用なし) (2) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稜、サニールージュ、シャルドネ)に薬害がでるので注意する。	/	/
		② モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
7月上旬	灰星病・黒星病 ホモフシス腐敗病 せん孔細菌病 シンクイムシ類 モモハモグリガ (ハマキムシ類)	① スクレアフロアブル 3,000倍 (33ml)	前日まで 3回以内	400%	さくらんぼ園地への飛散に注意	/	/
		② ハリダシン液剤5 500倍 (200ml)	7日前まで 4回以内				
		③ エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内				
7月中旬 (袋掛け前)	黒星病 灰星病 カイガラムシ類・アブラムシ類 シンクイムシ類・ハマキムシ類 ハダニ類	① インターフロアブル 5,000倍 (20ml)	前日まで 4回以内	400%		/	/
		② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	前日まで 4回以内				
		③ マイトコーネフロアブル 1,000倍 (100ml)	前日まで 1回				
7月下旬	灰星病・黒星病 ホモフシス腐敗病 アブラムシ類・アザミウマ類 ハダニ類 シンクイムシ類・カメムシ類	① ベルクートフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	400%	(1) アーデントフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	/
		② アーデントフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内				
8月上旬	灰星病・黒星病・炭疽病 ホモフシス腐敗病 アブラムシ類・シンクイムシ類 モモハモグリガ	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	400%		/	/
		② ハリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
収穫を終了した園地でも、シンクイムシ類の防除を実施する。							
8月中旬	灰星病・黒星病 ホモフシス腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ (ハマキムシ類)	① ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで 2回以内	400%	(1) 防除効果を高めるため、降雨前に散布する。 (2) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稜、サニールージュ、シャルドネ)に薬害がでるので注意する。	/	/
		② エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内				
8月下旬 (晩生種)	黒星病 灰星病 アブラムシ類・カイガラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類・カメムシ類	① インターフロアブル 5,000倍 (20ml)	前日まで 4回以内	400%	(1) 防除効果を高めるため、降雨前に散布する。	/	/
		② モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
9月上旬 (晩生種)	灰星病・黒星病 ホモフシス腐敗病 アブラムシ類 シンクイムシ類・モモハモグリガ	① ベルクートフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	400%	(1) 防除効果を高めるため、降雨前に散布する。 (2) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	/
		② スカウトフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 5回以内				
9月中下旬 (晩生種)	果実赤点病 黒星病・灰星病 シンクイムシ類 ハマキムシ類・モモハモグリガ	① パレード15フロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 2回以内	400%	(1) 防除効果を高めるため、降雨前に散布する。	/	/
		② サムコフロアブル10 5,000倍 (20ml)	前日まで 2回以内				
収穫後 (9月上旬以降)	せん孔細菌病 ハマキムシ類・ケムシ類 モモハモグリガ・コスカシバ シンクイムシ類	① アピオンE(展着剤) 2,000倍 (50ml)	—	400%	(1) ICボルドー412 30倍を使用できない園地では、トレノックスフロアブル500倍(7日前まで5回以内)を必ず散布する。 (2) せん孔細菌病対策として必ず防除を行う。但し、気象予報に注意し台風等風雨が予想される場合は事前に防除を行う。	/	/
		② ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	—				
		③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内				
(前回散布14日後)	せん孔細菌病	① アピオンE(展着剤) 2,000倍 (50ml)	—	400%	(1) せん孔細菌病対策として必ず防除を行う。但し、気象予報に注意し台風等風雨が予想される場合は事前に防除を行う。	/	/
(前回散布14日後)	せん孔細菌病	② ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	—	400%			
コスカシバの発生が多い園地では、トラサイドA乳剤200倍(収穫後～発芽前の幼虫食入期1回)を樹幹及び主枝に十分散布する。							

# 令和7年 西洋なし病害虫防除暦

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	農業使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
発芽前 (平年5・7月発芽 3月23日頃)	カイガラムシ類 うどんこ病・黒星病 胴枯病・腐らん病 輪紋病 カイガラムシ類幼虫	① スプレーオイル	50倍 (2%)	発芽前 —	350%	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の続く時に使用する。 (2) 薬剤散布前に必ず粗皮削りを行う。 (3) 5月中旬まで輪紋病のいぼ皮病斑は必ず削り取りトップジンMペースト(3回以内)を塗布する。	/
		② トップジンM水和剤	1,000倍 (100g)	前日まで 6回以内			
		③ アプロードフロアブル	1,000倍 (100ml)	30日前まで 2回以内			
<b>胴枯病対策</b> 西洋なしは胴枯病に弱く、薬剤だけでは防げないため、以下の耕種防除を実施する。常日頃から園地を見て回り、早期発見に努める。病患部を少しでも残すと再発するので、発病部を発見したら剪除し、切れない枝は健全部を含めて大きく削り取り、トップジンMペースト(3回以内)を塗布する。健全な樹勢を保ち枝の更新に努め、明るい風通しの良い園地づくりを目指す。							
フェロモン剤設置時期(4月20日頃)【ナシヒメシクイ対策はナシヒメコン100本/10a】 前年、黒斑細菌病の発生がみられた園地では、開花前にICボルドー412 30倍を散布する。							
満開直後 (100%開花時)	黒星病・黒斑病 輪紋病 ハマキムシ類 シンクイムシ類	① オキシンドー水和剤80	1,200倍 (83g)	3日前まで 9回以内	400%	(1) 訪花昆虫の活動時間前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。 (2) 有機銅を含む剤(オキシンドー水和剤80、オキシラン水和剤)の総使用回数は12回以内(但し、塗布は3回以内、散布は9回以内)とする。	/
		② フェニックスフロアブル	4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内			
		ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤を除く)の散布は行わない。					
落花1週間後 (5月中旬)	うどんこ病 黒星病 胴枯病・腐らん病 輪紋病 アブラムシ類・カメムシ類 シンクイムシ類	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml)	—	400%	(1) 胴枯病の萎凋枯死花そうや、枯死枝は病部を確認し、徹底して取り除き処分する。 (2) 訪花昆虫の活動時間前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。	/
		② トップジンM水和剤	1,000倍 (100g)	前日まで 6回以内			
		③ モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内			
5月下旬 (5/25頃)	黒星病・黒斑病 輪紋病 ハマキムシ類・アブラムシ類 シンクイムシ類 コナカイガラムシ類若齢幼虫	① オキシラン水和剤	600倍 (166g)	3日前まで 9回以内	500%	(1) 輪紋病・胴枯病の重要な防除時期であるので散布間隔をあげないように7月下旬まで枝幹にも十分散布する。	/
		② ダイアジノン水和剤34	1,000倍 (100g)	14日前まで 6回以内			
		③ バイカルティ(カルシウム肥料)	1,000倍 (100g)	— (肥料登録)			
仕上げ摘果は4頂芽に1果を目安とし、落花後40日(6月上旬)ぐらいまで終わす。基部から数えて2~4番目の果実を残す。							
6月上旬	うどんこ病・黒星病 胴枯病・腐らん病 輪紋病 カイガラムシ類・アザミウマ類 アブラムシ類・ハダニ類	① トップジンM水和剤	1,000倍 (100g)	前日まで 6回以内	500%	(1) この日以降、輪紋病・胴枯病の重要な防除時期であるので、防除間隔があかないようにする。 (2) 散布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に防除を行う。 (3) さくらんぼに隣接している園地では、トップジンM水和剤に代えてファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍(前日まで3回以内)を散布する。	/
		② モベントフロアブル	2,000倍 (50ml)	14日前まで 3回以内			
		③ バイカルティ(カルシウム肥料)	1,000倍 (100g)	— (肥料登録)			
ハダニ対策 ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。							
6月中旬	心腐れ症(胴枯病菌) 輪紋病 シンクイムシ類 アブラムシ類 ハダニ類	① デランフロアブル	1,000倍 (100ml)	60日前まで 4回以内	500%	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     さくらんぼ園地への飛散に注意                 </div>	/
		② バリアード顆粒水和剤	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内			
		③ ダニコングフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで 1回			
		④ バイカルティ(カルシウム肥料)	1,000倍 (100g)	— (肥料登録)			
6月下旬 (6/25頃) 前回散布10日後	黒斑病・炭疽病 黒星病・輪紋病 アブラムシ類 ハダニ類 カメムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ	① ナリアWDG	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内	500%	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に薬害があるので注意する。 (2) アーデントフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので、養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (3) コルト顆粒水和剤は、西洋なし(ル・レクチェ)に薬害、さくらんぼの果実に汚れを生じるおそれがあるので注意する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <b>輪紋病(胴枯病)対策</b>                      さくらんぼに飛散する恐れがない園地では、ナリアWDGに代えてオキシラン水和剤 600倍(3日前まで9回以内)を散布する。                 </div>	/
		② アーデントフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内			
		③ コルト顆粒水和剤	3,000倍 (33g)	前日まで 3回以内			
		④ バイカルティ(カルシウム肥料)	1,000倍 (100g)	— (肥料登録)			
※有機銅剤散布後すぐに降雨があった場合追加散布する。薬剤散布を行う場合は、気温25℃以上の時は散布を控えるとともに、散布後急激に温度が上がる事が予想される場合も散布を控える。							
7月上旬	黒星病 黒斑病 輪紋病 カメムシ類・アブラムシ類 シンクイムシ類 コナカイガラムシ類	① アピオンE(展着剤)	2,000倍 (50ml)	—	500%	(1) さくらんぼに隣接している園地では、オキシラン水和剤に代えてファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍(前日まで3回以内)を散布する。	/
		② オキシラン水和剤	600倍 (166g)	3日前まで 9回以内			
		③ スタークル顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内			
7月中旬	黒星病 黒斑病 輪紋病 ハマキムシ類・アブラムシ類 シンクイムシ類 コナカイガラムシ類若齢幼虫 ハダニ類	① アピオンE(展着剤)	2,000倍 (50ml)	—	500%		/
		② オキシラン水和剤	600倍 (166g)	3日前まで 9回以内			
		③ ダイアジノン水和剤34	1,000倍 (100g)	14日前まで 6回以内			
		④ マイトコーネフロアブル	1,000倍 (100ml)	前日まで 1回			
7月下旬	黒星病 黒斑病 輪紋病 シンクイムシ類 アブラムシ類	① アピオンE(展着剤)	2,000倍 (50ml)	—	500%	(1) 今回以降ハダニ類の発生が見られる園地では、コロマイト水和剤2,000倍(前日まで1回)を散布する。	/
		② オキシンドー水和剤80	1,200倍 (83g)	3日前まで 9回以内			
		③ バリアード顆粒水和剤	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内			
フェロモン剤設置時期(7月下旬頃)【ナシヒメシクイ対策はナシヒメコン 50~100本/10a】							
8月上旬	黒星病・黒斑病 輪紋病 アブラムシ類 シンクイムシ類・ハマキムシ類	① オキシラン水和剤	600倍 (166g)	3日前まで 9回以内	500%	(1) バイスロイドEWは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/
		② バイスロイドEW	2,000倍 (50ml)	7日前まで 2回以内			
8月中旬	黒斑病・炭疽病 黒星病・輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 カイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ	① ナリアWDG	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内	500%	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に薬害があるので注意する。 (2) コルト顆粒水和剤は、西洋なし(ル・レクチェ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。	/
		② エクシレルSE	2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内			
		③ コルト顆粒水和剤	3,000倍 (33g)	前日まで 3回以内			
8月下旬	うどんこ病・黒星病 胴枯病・腐らん病 輪紋病 シンクイムシ類 アブラムシ類	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml)	—	500%		/
		② トップジンM水和剤	1,000倍 (100g)	前日まで 6回以内			
		③ バリアード顆粒水和剤	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内			
9月上旬	黒星病・黒斑病 輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml)	—	500%		/
		② オキシンドー水和剤80	1,200倍 (83g)	3日前まで 9回以内			
		③ ディアナWDG	5,000倍 (20g)	前日まで 2回以内			
9月中旬	黒星病・黒斑病 輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml)	—	500%	(1) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/
		② オキシンドー水和剤80	1,200倍 (83g)	3日前まで 9回以内			
		③ アグロスリン水和剤	1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内			
9月下旬	黒斑病・炭疽病 黒星病・輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類	① ナリアWDG	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内	500%	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に薬害があるので注意する。	/
		② エクシレルSE	2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内			

# 令和7年 りんご病害虫防除暦 (No1)

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (葉量/水100%)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)		
散布前までに輪紋病の原因となる、いぼ皮病斑をけずり取りトップジンMペースト(3回以内)を塗布する。									
発芽直前 (平年ふじ発芽 3月30日頃)	カイガラムシ類 ハダニ類 腐らん病 (黒星病)	① スプレーオイル 50倍 (2%)	発芽前	350%	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の続く時に使用する。	/	/		
		② ベフラン液剤25 1,000倍 (100ml)	休眠期 6回以内						
		③ アブロードフロアブル 1,000倍 (100ml)	30日前まで 2回以内						
<b>黒星病対策として雨前散布を原則とし、散布間隔を10日以上あげない。薬液は十分量(400%以上/10a)散布する。</b>									
黒 展葉期 (花そう葉が2~3枚 展葉した頃 雨前散布)	黒星病 斑点落葉病 輪紋病 褐斑病・炭疽病	① ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	-	400%	(1) ICボルドー412を散布できない圃地では、アイヤーエース10,000倍にバースト顆粒水和剤1,000倍(45日前まで3回以内)を加用散布する。	/	/		
		前回散布7日後 雨前散布	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml) ② ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	- 開花前まで 2回以内	400%	(1) ストライド顆粒水和剤は、開花前までの総使用回数を2回以内とする。	/	/	
<b>フェロモン剤設置時期(4月20日頃)【ナシヒメシンクイ対策はナシヒメコン100本/10a】</b>									
摘花剤の散布	1回目側花の7~8割開花時、えき花芽を対象として2回目を散布する場合は、1回目の2~3日後に1回、エコルキー100~150倍(2回以内)を10a当り300~600%散布する。めしべに充分薬液がかかるように散布する。(中心花の結実が良好と思われる場合に使用)SSで散布する場合はファンを止めて散布する。								
星 特別散布 防除間隔があく場合 雨前散布	斑点落葉病 黒星病・褐斑病 黒点病・輪紋病 炭疽病・赤星病	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	30日前まで 5回以内	400%		/	/		
		開花直前 (平年ふじ開花始 5月2日頃) 雨前散布	① カナメフロアブル 4,000倍 (25ml) ② トレノックスフロアブル 500倍 (200ml) ③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 3回以内 30日前まで 5回以内 前日まで 2回以内				400%	(1) 訪花昆虫の活動時間前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。
		重 落花直後 ふじの中心花 80%落花時 雨前散布	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml) ② スコア顆粒水和剤 3,000倍 (33g) ③ ジマンダイセン水和剤 600倍 (166g)	- 14日前まで 3回以内 30日前まで 3回以内				400%	(1) 腐らん病の発生している圃地では、トップジンM水和剤1,000倍(前日まで6回以内)を必ず散布する。 (2) ハマキムシ類の発生が見られる圃地では、バイオマックスDF2,000倍を加用散布する。 (3) マンゼブ剤は高温時に薬害が生ずる場合があるので注意する。
薬剤による摘果は「ふじ」「紅玉」を対象にマイクロナボン水和剤85、1,200倍(2回以内)を10a当り400%散布する。展着剤アブロードB1を加用(30ml/10%)し、満開後2~3週間頃使用する。(ふじ中心果の横径で6~7mm)									
点 防 腐 病 重点 防 除 期	腐らん病対策	常日頃から腐らん病に注意して園地を見て回り、早期発見に努める。発病部を発見したら病部は、健全部を含めて大きく削り取り、トップジンMオイルペースト原液(3回以内)を塗布する。病部が幹全体におよんでいる場合は、樹全体を処分(根元から切り取り処分)する。枝腐らんは切り取り処分する。							
	前回散布7日後 雨前散布	① ジマンダイセン水和剤 600倍 (166g) ② トップジンM水和剤 1,000倍 (100g) ③ モスピラン顆粒水溶液 2,000倍 (50g) ④ バイカルティ(カルシウム肥料) 1,000倍 (100g)	30日前まで 3回以内 前日まで 6回以内 前日まで 3回以内	500%	(1) マンゼブ剤は高温時に薬害が生ずる場合があるので注意する。	/	/		
	5月下旬 (落花15日後) 雨前散布	① アントラコール顆粒水和剤 500倍 (200g) ② トランスフォームフロアブル 2,000倍 (50ml) ③ バイカルティ(カルシウム肥料) 1,000倍 (100g)	45日前まで 4回以内 前日まで 3回以内	500%	(1) リンゴワタムシの発生が多い圃地では、主幹部までいかに散布する。 <b>さくらんぼ圃地への飛散に注意</b>	/	/		
6月上旬 雨前散布	① ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 (33g) ② モベントフロアブル 2,000倍 (50ml) ③ バイカルティ(カルシウム肥料) 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内 14日前まで 3回以内	500%	<b>黒星病対策</b> さくらんぼに飛散する恐れがない圃地では、 <b>トレノックスフロアブル 500倍</b> (30日前まで5回以内)を加用散布する。	/	/			
前年、モモシンクイガの発生が多かった圃地では、カルホス微粒剤Fを10a当り5kg(夏蒔営繕時~第一世代成虫羽化期まで4回以内)6月中旬~7月に2回地表面散布する。									
ハダニ対策	ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。								
果 実 腐 敗 病 害 重 点 防 除 期	6月中旬 (6/15頃) 雨前散布	① アクサーフロアブル 2,000倍 (50ml) ② バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g) ③ ダニコングフロアブル 2,000倍 (50ml) ④ バイカルティ(カルシウム肥料) 1,000倍 (100g)	14日前まで 3回以内 前日まで 3回以内 前日まで 1回	500%	(1) ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。 (2) 有機銅剤は満開40日(6月中旬)以前の散布はサビ果の発生を多くするので早期散布をさける。 (3) リンゴワタムシの発生が多い圃地では、トランスフォームフロアブル2,000倍(前日まで3回以内)を加用散布する。	/	/		
		6月下旬 (6/25頃) 雨前散布	① ナリアWDG 2,000倍 (50g) ② アーデントフロアブル 2,000倍 (50ml) ③ コルト顆粒水和剤 3,000倍 (33g) ④ バイカルティ(カルシウム肥料) 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内 前日まで 3回以内 前日まで 3回以内	500%	(1) 降雨等により防除間隔があくと褐斑病が発生しやすくなるので注意する。 (2) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ヒオネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に薬害があるので注意する。 (3) アーデントフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くには絶対に使用しない。 (4) コルト顆粒水和剤は、西洋なし(ル・レクチェ)に薬害、さくらんぼの果実に汚れを生じるおそれがあるので注意する。	/	/	
※ 薬剤散布を行う場合は、気温25℃以上の時は散布を控えるとともに、散布後急激に温度が上がる事が予想される場合も散布を控える。 仕上げ摘果は遅くとも6月下旬まで終わらせる。(昇林は7月中旬まで)									

# 令和7年 りんご病害虫防除暦 (No2)

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100㍓)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
果 実 腐 敗 病 害 重 点 防 除	7月上旬 雨前散布	黒星病・黒点病 炭疽病・輪紋病 斑点落葉病・褐斑病 アブラムシ類 カメムシ類・キンモンホソガ コナカイガラムシ類 シンクイムシ類	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500㍓	(1) 斑点落葉病の伝染源を少なくするため余分な徒長枝は剪除する。 (2) 有機銅剤は散布後降雨があると、薬害が発生するので注意する。 (特につがる、スターキングデリシャス、王林) (3) さくらんぼに隣接している園地では、オキシラン水和剤をファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍(前日まで3回以内)に代えて散布する。	/
		② オキシラン水和剤 600倍 (166g)	14日前まで 4回以内				
		③ スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
7月中旬 雨前散布	黒星病・黒点病 炭疽病・輪紋病 斑点落葉病・褐斑病 アブラムシ類・キンモンホソガ ナシヒメシンクイ ナミハダニ リンゴハダニ	① オキシラン水和剤 600倍 (166g)	14日前まで 4回以内	500㍓	<b>つがる(益用)は、オキシラン水和剤の収穫前日数に注意する。</b> <b>つがる(益用)には、ダイアジノン水和剤34に代えてオリオン水和剤40 1,000倍(前日まで2回以内)を散布する。</b>	/	
		② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	30日前まで 4回以内				
		③ マイトコーネフロアブル 1,000倍 (100ml)	前日まで 1回				
7月下旬 (7/25頃) 雨前散布	褐斑病・黒星病 炭疽病・斑点落葉病 輪紋病 褐斑病・黒星病 輪紋病 カメムシ類・シンクイムシ類 リンゴワタムシ	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500㍓	<b>つがる(益用)には、オキシンドー水和剤80に代えてアリエッティC水和剤800倍(前日まで3回以内)を散布する。</b>	/	
		② オキシンドー水和剤80 1,200倍 (83g)	14日前まで 4回以内				
		③ トップジンM水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 6回以内				
		④ バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
落果防止剤の使用	「つがる」は収穫開始予定日の約25日前に、ストップボール液剤1,000倍を10a当り450~600㍓散布する。その後追加散布を要する場合は10日程度後にも1回散布できる。(収穫開始予定日の25日~7日前まで2回以内、但し、2回散布の場合は10日程度間隔をあげる。)						
8月上旬	黒星病・黒点病 炭疽病・輪紋病 斑点落葉病・褐斑病 アブラムシ類・カメムシ類 キンモンハモグリガ・ハマキムシ類 キンモンホソガ・シンクイムシ類	① オキシラン水和剤 600倍 (166g)	14日前まで 4回以内	500㍓	(1) 有機銅を含む剤(オキシラン水和剤、オキシンドー水和剤80等)の総使用回数は7回以内(但し、塗布は3回以内、散布は4回以内)とする。 (2) バイスロイドEWは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 <b>早生種の散布は収穫14日前まで終了する。</b>	/	
		② バイスロイドEW 2,000倍 (50ml)	7日前まで 4回以内				
8月中旬	黒星病 黒点病・褐斑病 斑点落葉病・輪紋病 アブラムシ類・カイガラムシ類 リンゴワタムシ	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500㍓	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に薬害がでるので注意する。 (2) コルト顆粒水和剤は、西洋なし(ル・レクチェ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。	/	
		② ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
		③ コルト顆粒水和剤 3,000倍 (33g)	前日まで 3回以内				
8月下旬	黒星病・斑点落葉病 輪紋病・褐斑病 すす点病・すす斑病 カメムシ類・シンクイムシ類 リンゴワタムシ	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500㍓		/	
		② ダイパワー水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 6回以内 但し、開花期以降は3回以内				
		③ バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
9月上旬	褐斑病 すす点病・すす斑病 斑点落葉病・輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 キンモンホソガ	① ベルクートフロアブル 1,500倍 (66ml)	前日まで 6回以内 但し、開花期以降は3回以内	500㍓	(1) 腐らん病対策として、収穫した早生種(つがる)にも散布を行う。 (2) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
		② アグロスリン水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 2回以内				
落果防止剤の使用 (平年値)	ストップボール液剤1,000~1,500倍を10a当り450~600㍓を散布する。(収穫開始予定日の25日~7日前 1回の使用とする)						
	昂林 9月1日頃			やたか・千秋 9月5日頃			
	紅玉・スターキング 9月10日頃			王林 10月1日頃			
	ヒオモン水溶剤2,000倍を10a当り300~600㍓散布する。(収穫開始予定日の21日~4日前 1回)						
「秋陽」は 9月10日頃			「こうとく」は 10月10日頃				
9月中下旬	褐斑病 すす点病・すす斑病 炭疽病 ハマキムシ類 シンクイムシ類	① ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	開花から 収穫前日まで 3回以内	500㍓	(1) ストライド顆粒水和剤の総使用回数は、開花前2回以内、開花から収穫前日まで3回以内とする。	/	
		② エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内				
9月下旬~10月上旬 降雨が多い場合の 特別散布	褐斑病 すす点病・すす斑病 炭疽病	① ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	開花から 収穫前日まで 3回以内	500㍓	(1) 今回以降収穫前まで、低温で降雨が続く場合は、ナリアWDG 2,000倍(前日まで3回以内)を散布する。 (2) ストライド顆粒水和剤の総使用回数は、開花前2回以内、開花から収穫前日まで3回以内とする。	/	
休眠期	腐らん病 黒星病	① アピオン-E(展着剤) 2,000倍 (50ml)	—	400㍓	(1) 腐らん病(黒星病)防除のため、必ず散布する。	/	
		② トップジンM水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 6回以内				
		③ ベルクート水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 6回以内 但し、開花期以降は3回以内				
黒星病対策	黒星病の発生が多い園地では来年の越冬菌密度を低下させる為、耕種の防除としてDL消石灰(100kg程度/10a)を散布する。						

晩腐病対策のためのカサかけ・枝かけ具の徹底

- 第2回ジベ処理直後できる限り早くカサかけを行なう。
- カサかけが遅れると効果が劣る。
- カサかけは、雨もりを防ぐため果梗に密着するよう丁寧に行なう。
- カサかけと枝かけ具の併用は、更に効果が高い。
- 枝かけ具は休眠期から5月下旬までにかけ、その後風などでずれた場合は効果が劣るので随時手直しする。
- 収穫後できるだけ早く除去する。

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	農業使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
休眠期	晩腐病 黒とう病 つる割病	① デランフロアブル 200倍 (500ml)	休眠期 1回	200%	(1) 前年の房とり残しの部分や巻ヒゲ及び結果母枝の枯死部分などの除去は、晩腐病防除に重要であるので徹底する。 (2) 前年晩腐病が発生した園地では、結果母枝にトップジンMペースト3倍液(休眠期3回以内)を塗布する。なお、萌芽後の使用は薬害が生じる恐れがあるので、必ず萌芽前に使用する。 (3) 前年ブドウトラカミキリの発生が多かった園地では、訪花昆虫の活動前にトラサイドA乳剤300倍(萌芽前2回以内)を加用散布する。	/	
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤の散布は行わない。							
展葉2~3枚 (5月上旬)	枝膨病・晩腐病 黒とう病・べと病 カメムシ類 チャノキイロアザミウマ コナカイガラムシ類 ブドウトラカミキリ	① デランフロアブル 1,000倍 (100ml) ② スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	落弁期まで (但し、7.5日前まで) 2回以内 前日まで 3回以内	200%	訪花昆虫の活動がない時に散布する。	/	
第1回目ジベレリン処理は満開予定日の約14日前に100ppm(2%の水に薬量は200mg)で実施する。 処理が遅れた場合は、アグレプト液剤1,000倍を加用して処理する。							
開花直前 第1回ジベ処理後 (6月上旬)	晩腐病・黒とう病 うどんこ病・べと病 灰色かび病 コガネムシ類 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml) ② テーク水和剤 1,000倍 (100g) ③ アグロスリン水和剤 2,000倍 (50g)	- 45日前まで 2回以内 21日前まで 5回以内	300%	(1) コウモリガの加害時期なので、幹周辺を清掃し、見つけ次第捕殺する。 (2) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
落花直後 (6月中旬)	晩腐病・褐斑病 黒とう病・さび病 灰色かび病・べと病 カメムシ類・コガネムシ類 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml) ② ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g)	30日前まで 3回以内 前日まで 3回以内	300%	(1) 汚染防止のため、この時期より展着剤を使わない。 (2) アミスター10フロアブルはりんごに薬害が出るので絶対に飛散しない様に注意する。	/	
第2回目ジベレリン処理は満開約10日後に75ppm(2%の水に薬量は150mg)で実施する。							
第2回ジベ処理後 (6月下旬)	黒とう病・晩腐病 さび病・灰色かび病	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	300%	(1) 6月下旬になると、晩腐病の胞子が雨によって多く飛散するので、ていねいに散布する。	/	
ハダニ対策	ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。						
7月上旬	黒とう病 晩腐病・褐斑病 灰色かび病・うどんこ病 ハダニ類	① フルーツセイバー 1,500倍 (66ml) ② コロマイト水和剤 2,000倍 (50g)	7日前まで 3回以内 7日前まで 2回以内	300%	(1) ダニ剤を散布する場合は通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。	/	
べと病・さび病の多発する園地では、7月上中下旬の3回棚上面からICボルドー66D 50倍(300%以上/10a)を散布する。							
仕上げ摘房は、坪当たり45房を目安に7月上旬頃まで終了する。							
収穫直後	べと病 さび病 スカシハ類 ハマキムシ類 ケムシ類	① アピオン-E(展着剤) 2,000倍 (50ml) ② ICボルドー66D 50倍 (2kg) ③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	- - 14日前まで 2回以内	300%	(1) さび病、べと病の発生が多い園地では、9月上中旬にもICボルドー66D50倍を散布する。 (2) ブドウトラカミキリの多い園地では、休眠期にトラサイドA乳剤300倍(休眠期2回以内)を散布する。 トラサイドA乳剤はアブラナ科野菜(はくさい、せいさい、だいこん)などに薬害があるので注意する。	/	

# 令和7年 ぶどう（大粒種）病害虫防除暦

（ シャインマスカット・キャンベル・ナイヤガラ・スチューベン・ピオーネ・巨峰等 ）



防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)		農薬使用基準 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)	
		露地栽培	雨よけハウス栽培						
休眠期 (ビニール被覆前)	晩腐病 黒とう病 つる割病	① デランフロアブル 200倍 (500ml)	① デランフロアブル 200倍 (500ml)	休眠期 1回	200%	(1) 前年の腐り残しの部分や巻ヒゲ及び結果母枝の枯死部分などの除去は晩腐病防除に重要であるので徹底する。 (2) 前年晩腐病が発生した園地では、結果母枝にトップジンMペースト3倍液(休眠期3回以内)を塗布する。なお、萌芽後の使用は葉害が生じる恐れがあるので、必ず萌芽前に使用する。 (3) 前年ブドウトラカミキリの発生が多かった園地では、訪花昆虫の活動前にトラサイドA乳剤300倍(発芽前2回以内)を加用散布する。			
晩腐病・べと病の発生が多い園地では、展葉初期までにICボルドー66D100倍を単用散布する。 ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤の散布は行わない。									
展葉2~3枚 (5月上中旬)	枝彫病・晩腐病 黒とう病・べと病 チャノキアザミウマ コナカイガラムシ類 カメムシ類 ブドウトラカミキリ	① デランフロアブル 1,000倍 (100ml)	① デランフロアブル 1,000倍 (100ml)	落葉期まで (但し、75日前まで) 2回以内	200%	訪花昆虫の活動がない時に散布する。			
展葉7~8枚 (5月下旬)	黒とう病 晩腐病・褐斑病 さび病・べと病 うどんこ病 黒とう病・さび病	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	200%	(1) この回以降、マンゼブを含む剤(ベンコゼブ水和剤、チーク水和剤等)を使用する場合は、総使用回数は2回以内とする。			
		② ベンコゼブ水和剤 1,000倍 (100g)	② ベンコゼブ水和剤 1,000倍 (100g)	45日前まで 2回以内					
		③ マネーシDF 5,000倍 (20g)		21日前まで 3回以内					
クビアカスカシバ 対策		フェニックスフロアブル500倍(開花前まで1回)を樹幹部に十分かかるようにいねいに単用散布する。							
開花前 (6月上旬)	晩腐病 黒とう病 晩腐病・褐斑病 さび病・べと病 チャノキアザミウマ フタテヒメヨコバイ スカシバ類	① ミギワ20フロアブル 4,000倍 (25ml)	① ミギワ20フロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 3回以内	300%	(1) コウモリガの加害時期なので、幹周辺を清掃し、見つけ次第捕殺する。 (2) バダンSG水溶剤は、テラウェアに登録がないため散布に十分注意する。			
		② ベンコゼブ水和剤 1,000倍 (100g)		45日前まで 2回以内					
		③ バダンSG水溶剤 1,500倍 (66g)	② バダンSG水溶剤 1,500倍 (66g)	21日前まで 5回以内					
商品性の高い果実を生産するため、満開前に房づくりを行う。									
落花直後 (6月中旬)	灰色かび病・べと病 黒とう病・晩腐病 褐斑病・さび病・枝彫病 べと病 チャノキアザミウマ ハスモンヨトウ ブドウサビダニ	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml)	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml)	30日前まで 3回以内	300%	(1) 満開時の散布をさける。 (2) 汚染防止のため、この時期より展着剤を使わない。 (3) アミスター10フロアブルはりんごに葉害が出るので絶対に飛散しない様に注意する。			
		② ベトファイター顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	② ベトファイター顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	30日前まで 3回以内					
		③ グレーシアフロアブル 4,000倍 (25ml)	③ グレーシアフロアブル 4,000倍 (25ml)	7日前まで 2回以内					
6月下旬	うどんこ病・褐斑病 黒とう病・さび病 灰色かび病 べと病 アザミウマ類・ハダニ類 フタテヒメヨコバイ	① カナメフロアブル 4,000倍 (25ml)		前日まで 3回以内	300%	(1) アーデント水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。			
		② アリエッティ水和剤 800倍 (125g)		30日前まで 3回以内					
		③ アーデント水和剤 1,000倍 (100g)		7日前まで 4回以内					
ハダニ対策		ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。							
落花15日後 (7月上旬)	黒とう病・晩腐病 褐斑病・さび病 灰色かび病・うどんこ病 カメムシ類・コガネムシ類 フタテヒメヨコバイ チャノキアザミウマ ハダニ類		① フルーツセイバー 1,500倍 (66ml)	7日前まで 3回以内	300%	(1) ダニ剤を散布する場合は通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (2) 露地栽培で、べと病が発生した場合は、ベトファイター顆粒水和剤2,000倍(30日前まで3回以内)を単用散布する。			
		② ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g)		前日まで 3回以内					
		③ コロマイト水和剤 2,000倍 (50g)	③ コロマイト水和剤 2,000倍 (50g)	7日前まで 2回以内					
袋かけ前 (7月中旬)	黒とう病・晩腐病 褐斑病・さび病 灰色かび病・うどんこ病 チャノキアザミウマ	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	250%	(1) さび病の多発する園地では、7月上旬及び7月下旬にICボルドー66D50倍を樹上から散布する。 (2) テルスターフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。			
		② テルスターフロアブル 4,000倍 (25ml)	② テルスターフロアブル 4,000倍 (25ml)	14日前まで 1回					
袋かけ直後 (7月下旬)	べと病 黒とう病・晩腐病 褐斑病・さび病 灰色かび病・うどんこ病 チャノキアザミウマ コガネムシ類	① レーバフロアブル 3,000倍 (33ml)		7日前まで 3回以内	250%				
		② フルーツセイバー 1,500倍 (66ml)	① フルーツセイバー 1,500倍 (66ml)	7日前まで 3回以内					
		③ テツパン液剤 2,000倍 (50ml)	② テツパン液剤 2,000倍 (50ml)	前日まで 2回以内					
収穫前 (8月中旬)	黒とう病・晩腐病 褐斑病・さび病 灰色かび病・うどんこ病 カメムシ類・コガネムシ類 フタテヒメヨコバイ チャノキアザミウマ	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	250%	(1) さび病、べと病の多発する園地では、この回以降もICボルドー66D50倍を樹上から散布する。			
		② ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g)		前日まで 3回以内					
収穫後	べと病 さび病 スカシバ類 ハマキムシ類 ケムシ類	① アピオン-E(展着剤) 2,000倍 (50ml)	① アピオン-E(展着剤) 2,000倍 (50ml)	—	300%	(1) ブドウトラカミキリの多い園地では、休眠期にトラサイドA乳剤300倍(休眠期2回以内)を散布する。トラサイドA乳剤はアブラコ野菜(ハクサイ、青菜、ダイコン)などに葉害がでるので注意する。			
		② ICボルドー66D 50倍 (2kg)	② ICボルドー66D 50倍 (2kg)	—					
		③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	14日前まで 2回以内					

【植物成長調節剤使用基準】 (シャインマスカット・ピオーネ等)

使用薬剤	使用時期		使用回数
	満開予定14日前 ~開花始期	1回目 満開期から満開3日後	
アグレプト液剤	1,000倍	2回目 満開10~15日後	1回
ジバレリン錠剤		12.5~25ppm (1錠当り水2~1ℓ)	25ppm (1錠当り水1ℓ)
フルメット液剤		2~5ppm (10cc当り5~2ℓ)	—
フラスター液剤	①新梢展開葉10~11枚時(開花始期まで)2,000倍(150ℓ/10a)1回目 ②満開10~20日後(但し、収穫60日前まで)1,000倍(300ℓ/10a)2回目 ※フラスター液剤は、新梢伸長抑制効果があるため、樹勢が弱い樹には使用しない。		2回以内

2024年11月1日現在

# 令和7年 すもも(フルーン) 病害虫防除暦

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100㍓)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
発芽前	カイガラムシ類	① スプレーオイル 50倍 (2㍓)	発芽前	350㍓	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用を避け好天の続く時に使用する。 (2) 発芽前までに遅れない様に散布する。 (3) 枝を洗うようにていねいに散布する。	/	
	ふくろみ病	② トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	14日前まで 3回以内				
	カイガラムシ類幼虫	③ アブロードフロアブル 1,000倍 (100ml)	14日前まで 2回以内				
フェロモン剤設置時期 (4月20日頃) 【 ナシヒメシンクイ、スモモヒメシンクイ対策は、ナシヒメコン100本/10a 】							
黒 斑	開花前	① ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	—	350㍓	(1) 前年、黒斑病・かいはよう病が発生した園地では必ず散布する。 (2) 開花前までに遅れないように散布する。	/	
	4月下旬 (満開3日後)	② マイコシールド 2,000倍 (50g)	21日前まで 3回以内	350㍓			
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤 (BT剤を除く) 散布は行わない。							
重 点 防 除	5月上旬	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	400㍓	(1) ふくろみ病の被害果は見つけ次第摘み取り土中深く埋める。	/	
		② アグレプト水和剤 1,000倍 (100g)	30日前まで 2回以内				
		③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内				
5月中旬 (殺虫剤解禁直後)	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	14日前まで 3回以内	400㍓	/			
	② マイコシールド 2,000倍 (50g)	21日前まで 3回以内					
	③ モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内					
フェロモン剤設置時期 (5月20日頃) 【 コスカシバ対策はスカシバコンL 50~100本/10a、ハマキムシ対策はハマキコン-N 150本/10a 】							
5月下旬	炭 疽 病 ふくろみ病 アブラムシ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	14日前まで 3回以内	400㍓	/		
		② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	21日前まで 4回以内				
		③ モベントフロアブル 2,000倍 (50ml)	7日前まで 3回以内				
6月上旬	炭 疽 病 黒 斑 病 ア ブ ラ ム シ 類 (シンクイムシ類)	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	400㍓	早生種の散布は収穫21日前まで終了する。	/	
		② マイコシールド 2,000倍 (50g)	21日前まで 3回以内				
		③ バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 2回以内				
6月中旬	ア ブ ラ ム シ 類 シンクイムシ類 ナミハダニ	① スカウトフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	400㍓	(1) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
		② ダニコングフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 1回				
6月下旬	炭 疽 病 黒 星 病 ア ブ ラ ム シ 類 カイガラムシ類 シンクイムシ類	① ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで 2回以内	400㍓	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に薬害がでるので注意する。	/	
		② モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
7月上旬	炭 疽 病 ケ ム シ 類 シンクイムシ類	① インダーフロアブル 5,000倍 (20ml)	前日まで 4回以内	400㍓	/		
		② エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内				
7月中旬	黒 星 病 ア ブ ラ ム シ 類 カイガラムシ類 シンクイムシ類	① スクレアフロアブル 3,000倍 (33ml)	前日まで 3回以内	400㍓	(1) ハダニ類の発生がみられる園地は、マイトコナーフロアブル1,000倍 (3日前まで1回)を加用散布する。	/	
		② モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
7月下旬	シンクイムシ類 ハダニ類	① アーデントフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	400㍓	(1) アーデントフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
8月上中旬 (8/10頃)	炭 疽 病 ア ブ ラ ム シ 類 (シンクイムシ類)	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	400㍓	/		
		② バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 2回以内				
8月中下旬 (8/20頃)	炭 疽 病 す す 点 病 シンクイムシ類 ア ブ ラ ム シ 類	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml)	前日まで 3回以内	400㍓	(1) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 <b>晩生種のみ散布する。</b>	/	
		② スカウトフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内				
9月上旬 (除袋後)	炭 疽 病 ケ ム シ 類 シンクイムシ類	① インダーフロアブル 5,000倍 (20ml)	前日まで 4回以内	400㍓	<b>晩生種のみ散布する。</b>	/	
		② エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内				
黒 斑 病 重 点 防 除	黒 斑 病 か い よ う 病 コ ス カ シ バ	① アピオン-E (展着剤) 2,000倍 (50ml)	—	400㍓	黒斑病の多発した園地では、ICボルドー412 30倍を前回散布14日後に追加散布する。	/	
		② ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	—				
		③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内				
コスカシバの発生が多い園地では、トラサイドA乳剤200倍 (収穫後~発芽前の幼虫食入期2回以内)を樹幹及び主枝に十分散布する。(100~450㍓/10a)							

# 令和7年 うめ病害虫防除暦

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
3月中旬 (発芽前)	カイガラムシ類	① スプレーオイル 50倍 (2%)	発芽前	350%	(1) 品種や系統によって発芽時期が異なるので適期防除に努める。 (2) マシン油等を使用するときは、低温時の使用をさけ、好天の続くときに使用する。	/	
	黒星病	② トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	21日前まで 2回以内				
	カイガラムシ類幼虫	③ アブロードフロアブル 1,000倍 (100ml)	7日前まで 2回以内				
4月下旬 (落花直後)	黒星病	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	350%	(1) ヤニ吹き果の多い樹では、この回以降3回、ヨーヒB5、800倍を加用散布する。	/	
	すす斑病	② オーソサイド水和剤80 800倍 (125g)	21日前まで 3回以内				
<b>ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤を除く)散布は行わない。</b>							
5月上旬	黒星病	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	400%	(1) 訪花昆虫保護のため、訪花昆虫の活動前(15℃になる前)に防除を終了する。	/	
	すす斑病	② ナリアWDG 2,000倍 (50g)	7日前まで 2回以内				
	アブラムシ類	③ モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
<b>フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【コスカシバ対策 スカシバコンL 50~100本/10a】</b>							
5月中旬 (5/20頃)	黒星病	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	21日前まで 2回以内	400%		/	
6月上旬	アブラムシ類	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	400%		/	
	アメリカシロヒトリ シンクイムシ類 ハマキムシ類	② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	21日前まで 2回以内				
6月中旬 (6/15頃)	黒星病・すす斑病 灰星病	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	400%	(1) 日中高温時(25℃以上)の散布はさける。	/	
	アブラムシ類 シンクイムシ類 アカマダラケシキスイ	② バリアード顆粒水和剤 4,000倍 (25g)	前日まで 2回以内				
ナミハダニが発生した場合は、ダニコングフロアブル2,000倍(前日まで1回)を散布する。							
9月中旬 (収穫後)	ケムシ類 コスカシバ	① フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内	400%		/	

# 令和7年 かき病害虫防除暦

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
休眠期 (発芽前)	カイガラムシ類	① スプレーオイル 50倍 (2%)	発芽前	350%	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の続く時に使用する。	/	
	カイガラムシ類幼虫	② アブロード水和剤 1,000倍 (100g)	開花期まで 但し、45日前まで 2回以内				
<b>ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤を除く)散布は行わない。</b>							
5月中旬	アザミウマ類 カイガラムシ類 カメムシ類 カキノヒメヨコバイ カキノハタムシガ	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	400%		/	
		② モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
開花直前 (5月下旬頃)	落葉病・炭疽病 すす点	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%		/	
		② オーソサイド水和剤80 1,000倍 (100g)	7日前まで 5回以内				
	アメリカシロヒトリ ハマキムシ類 オオウタコナカイガラムシ シ若齢幼虫	③ ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	45日前まで 4回以内				
満開期 (6/10頃)	炭疽病・うどんこ病 落葉病・灰色かび病	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	500%	(1) 落葉病とアザミウマ類防除の重要な時期なので、遅れないように葉裏まで、ていねいに散布する。 (2) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
	アザミウマ類 カキノハタムシガ カメムシ類	② アグロスリン水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内				
6月中下旬	炭疽病・落葉病 うどんこ病	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	30日前まで 2回以内	500%		/	
	アザミウマ類 カキノヒメヨコバイ	② ダントツ水溶剤 4,000倍 (25g)	7日前まで 3回以内				
7月中旬	落葉病・炭疽病 うどんこ病	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%	(1) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
		② オキシンドー水和剤80 1,000倍 (100g)	14日前まで 5回以内				
	アザミウマ類 カキノハタムシガ	③ アグロスリン水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内				
7月下旬	落葉病・炭疽病 うどんこ病	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%		/	
		② オキシンドー水和剤80 1,000倍 (100g)	14日前まで 5回以内				
	アザミウマ類 カイガラムシ類 カメムシ類 カキノヒメヨコバイ カキノハタムシガ	③ モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
8月上旬	落葉病・炭疽病 黒点病・すす点病 うどんこ病	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml)	7日前まで 3回以内	500%	(1) アザミウマ類防除の特に重要な時期である。 (2) 降雨の続く場合は、落葉病対策としてさらに9月上旬にナリアWDG2,000倍(前日まで2回以内)を散布する。但し、ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)、ぶどう(ピオーネ、藤稜、サニールージュ、シャルドネ)に薬害があるので注意する。 (3) チャノキイロアザミウマの発生が多い場合は、9月上旬にアディオソ乳剤3,000倍を散布する。(7日前まで5回以内)	/	
	アメリカシロヒトリ ハマキムシ類 オオウタコナカイガラムシ シ若齢幼虫	② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	45日前まで 4回以内				
カメムシ類の発生が多い場合は、スタークル顆粒水溶剤2,000倍(前日まで3回以内)を散布する。							